

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-079887
 (43)Date of publication of application : 24.03.1998

(51)Int.CI. H04N 5/243
 G03B 15/03
 G03B 19/02
 H04N 1/407

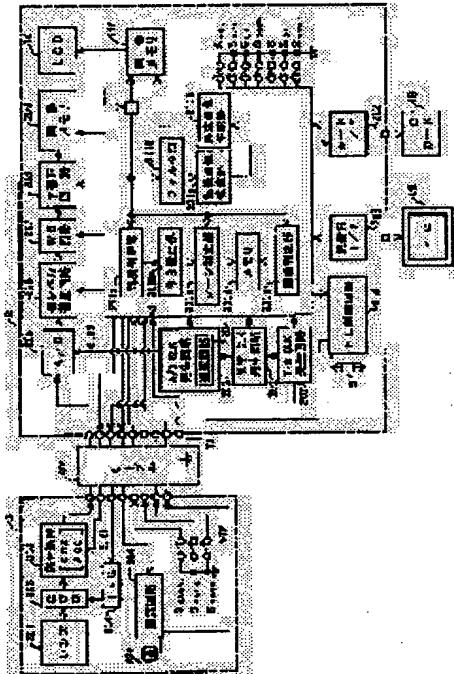
(21)Application number : 08-233489 (71)Applicant : MINOLTA CO LTD
 (22)Date of filing : 03.09.1996 (72)Inventor : TANAKA TOSHIYUKI

(54) DIGITAL CAMERA

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To make the image quality of a photographed image superior according to a photographed scene and a light-beam state, such as the lighting quantity of flash photography, wherein a subject it lit.

SOLUTION: A control part 211 which performs centralized control over the photographing operation of the camera has decision parts which decide the photography scene of the subject, such as a luminance decision part 2111a and a scene decision part 211c. Further, the control part 211 decides whether or not dimming control is proper from the output timing of the lighting stop signal of a dimming circuit 304. According to the decision results of the light-beam state wherein the subject is lit such as the decided photographic scene, whether the flash light quantity is proper, etc., characteristics of image processing such as γ characteristics and filter characteristics are set. An image signal, inputted by a CCD 303 has its contrast processed and the outline emphasized by a γ -correcting circuit 208 and a filter part 211f according to specific γ -characteristics and filter characteristics. With the characteristics of the specific image processing, corresponding to the light beam state of the subject, the image signal is processed to optimize image quality.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 26.06.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3092522

[Date of registration] 28.07.2000

[Number of appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-79887

(43)公開日 平成10年(1998)3月24日

(51)Int.Cl.⁶
H 04 N 5/243
G 03 B 15/03
19/02
H 04 N 1/407

識別記号 庁内整理番号

F I
H 04 N 5/243
G 03 B 15/03
19/02
H 04 N 1/40

技術表示箇所

X

101 E

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全29頁)

(21)出願番号 特願平8-233489

(22)出願日 平成8年(1996)9月3日

(71)出願人 000006079

ミノルタ株式会社

大阪府大阪市中央区安土町二丁目3番13号

大阪国際ビル

(72)発明者 田中 俊幸

大阪市中央区安土町二丁目3番13号 大阪

国際ビル ミノルタ株式会社内

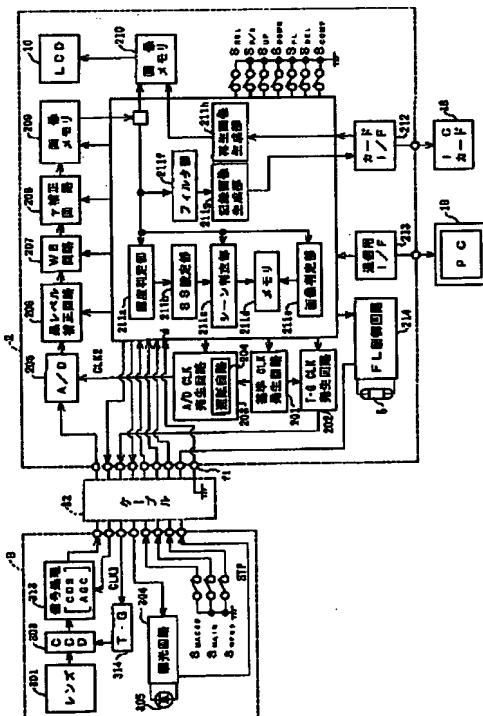
(74)代理人 弁理士 小谷 悅司 (外3名)

(54)【発明の名称】 デジタルカメラ

(57)【要約】

【課題】撮影シーンやフラッシュ撮影での発光量等の被写体を照明する光線状態に応じて撮影画像の画質を適にする。

【解決手段】カメラの撮影動作を集中制御する制御部211は輝度判定部2111a、シーン判定部211c等の被写体の撮影シーンを判定する判定部を有している。また、制御部211は調光回路304の発光停止信号の出力タイミングから調光制御の適否が判別される。判別された撮影シーン、フラッシュ光量の適否等の被写体を照明する光線状態の判別結果に応じて γ 特性、フィルタ特性等の画像処理の特性が設定される。CCD303で取り込まれた画像信号は γ 補正回路208及びフィルタ部211fで所定の γ 特性、フィルタ特性に従いコントラスト、輪郭強調等の信号処理が行なわれる。被写体の光線状態に応じた所定の画像処理の特性で画像信号の処理を行なうことにより画質の適正化を図った。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 被写体光像を画像信号に光電変換して取り込む撮像手段と、被写体を照明する光線の状態に基づいて予め設定された複数の撮影条件に対応して複数の画像処理の特性が記憶された特性記憶手段と、上記被写体を照明する光線の状態を判別する光線状態判別手段と、上記光線状態判別手段の判別結果に基づき画像処理の特性を設定する特性設定手段と、上記撮像手段で取り込まれた画像信号を設定された画像処理の特性に従って処理する画像信号処理手段とを備えたことを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項2】 請求項1記載のデジタルカメラにおいて、閃光を発光する閃光発光手段を備え、上記光線状態判別手段は、閃光発光撮影においては、被写体が上記閃光発光手段により所定の発光量で照明されたか否かを判別するものであることを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項3】 請求項2記載のデジタルカメラにおいて、上記光線状態判別手段は、上記撮像手段の露光期間中に上記閃光発光手段の発光量が所定の発光量に達したか否かによって被写体が所定の光量で照明されたか否かを判別するものであることを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項4】 請求項1～3のいずれかに記載のデジタルカメラにおいて、上記特性記憶手段に記憶された画像処理の特性には γ 特性が含まれ、この γ 特性の設定は、上記撮像手段の露光動作の終了時から画像信号の上記画像信号処理手段への読み出しまでの間に行なわれるものであることを特徴とするデジタルカメラ。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】 本発明は、静止した被写体光像を画像信号に光電変換して取り込むデジタルカメラに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 被写体光像を画像信号に光電変換して取り込む撮像装置においては、撮像画像をLCD (Liquid Crystal Display) やCRT (Cathode Ray Tube) 等の表示装置に再生表示するため、表示装置における再生画像の画質を好適にするため、 γ 補正やデジタルフィルタによるフィルタリング処理が行なわれる。 γ 補正是、画像の階調特性を調整するものであり、フィルタリング処理は画像の高周波成分を調整して輪郭強調を行なうものである。

【0003】 デジタルカメラにおいては、一般に、CCD等の固体撮像素子により取り込まれた画像信号は、デジタルの画像データにA/D変換された後、所定の γ 特性で γ 補正され、更に所定のフィルタ特性でフィルタリング処理が行なわれ後、圧縮処理がなされて記録媒体に記録されるようになっている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、デジタルカメラの撮像素子の解像度は、銀塩フィルムの解像度に比べて低いため、撮像画像は銀塩フィルムに撮影された画像よりも低画質となる。このため、撮像画像の画質は、種々の撮影シーン又は撮影条件(すなわち、被写体を照明する自然光若しくは人工光の光線状態)によって著しく異なり、その相違は、銀塩フィルムに撮影された画像の場合よりも大きくなる。例えば輝度バランスの大きい被写体では、撮像画像の一部が明るすぎて白部分が描写されなかったり、低輝度シーンやフラッシュ撮影でフラッシュ光量が不適切の場合は、暗部がベタ黒のザラついた画像となり、著しく見辛い画像となる。

【0005】 従来、デジタルカメラでは、撮像素子での入力画像の画質に一定の制限がある反面、その入力画像を処理することにより画質の補正を行なうことができるため、 γ 補正やフィルタリング処理等の画像処理により画質調整がなされているが、上記のように種々の撮影シーンや撮影条件に応じて画像処理の特性を異ならせ、極め細かい画質調整を行なうこととはなされていない。このため、好適な画質が得られる被写体は限られ、銀塩フィルムを用いたカメラのような撮影を行なうことは困難であった。

【0006】 本発明は、上記課題に鑑みてなされたものであり、種々の撮像条件に応じて好適な画質の撮像画像を得ることのできるデジタルカメラを提供するものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】 請求項1記載の発明は、被写体光像を画像信号に光電変換して取り込む撮像手段と、被写体を照明する光線の状態に基づいて予め設定された複数の撮影条件に対応して複数の画像処理の特性が記憶された特性記憶手段と、上記被写体を照明する光線の状態を判別する光線状態判別手段と、上記光線状態判別手段の判別結果に基づき画像処理の特性を設定する特性設定手段と、上記撮像手段で取り込まれた画像信号を設定された画像処理の特性に従って処理する画像信号処理手段とを備えたものである。

【0008】 上記構成によれば、本撮影に際し、被写体を照明する光線の状態が判別される。例えば本撮影前に撮像された画像の輝度分布に基づき被写体の撮影シーン(低輝度、中輝度、高輝度等のシーン)が判別され、フラッシュ発光の有無により被写体が補助照明されるか否かが判別され、更に、フラッシュ撮影においては、被写体がフラッシュにより適正に照明されたか否かが判別される。

【0009】 そして、本撮影においては、撮像手段で取り込まれた画像信号が光線状態判別結果に基づいて設定された画像処理の特性に従って処理される。

【0010】 また、請求項2記載の発明は、上記デジタルカメラにおいて、閃光を発光する閃光発光手段を備

え、上記光線状態判別手段は、閃光発光撮影においては、被写体が上記閃光発光手段により所定の発光量で照明されたか否かを判別するものである。

【0011】上記構成によれば、被写体が閃光発光手段により所定の発光量で照明されたか否かにより被写体を照明する光線の状態（すなわち、被写体が適正に照明されたか否か）が判別される。

【0012】また、請求項3記載の発明は、デジタルカメラにおいて、上記光線状態判別手段は、上記撮像手段の露光期間中に上記閃光発光手段の発光量が所定の発光量に達したか否かによって被写体が所定の光量で照明されたか否かを判別するものである。

【0013】上記構成によれば、撮像手段の露光期間中に閃光発光手段の発光量が所定の発光量に達したか否かによって被写体が適正に照明されたか否かが判別される。

【0014】更に、請求項4記載の発明は、上記デジタルカメラにおいて、上記特性記憶手段に記憶された画像処理の特性には γ 特性が含まれ、この γ 特性の設定は、上記撮像手段の露光動作の終了時から画像信号の上記画像信号処理手段への読み出しまでの間に行なわれるものである。

【0015】上記構成によれば、撮像手段により取り込まれた画像信号は、被写体を照明する光線状態に基づいて、撮像手段の露光動作の終了時から画像信号の画像信号処理手段への読み出しが始まる間に設定された γ 特性に従って γ 補正処理が行なわれる。

【0016】

【発明の実施の形態】本発明に係るデジタルカメラについて、図を用いて説明する。図1は、本発明に係るデジタルカメラの正面図、図2は、同デジタルカメラの背面図である。また、図3～図5は、それぞれ同デジタルカメラの上面図、右側面図、底面図である。

【0017】デジタルカメラ1は、箱型のカメラ本体部2と直方体状の撮像部3とから構成されている。撮像部3は、正面から見てカメラ本体部2の右側面に着脱可能、かつ、この右側面と平行な面内に回動可能に着脱されている。また、撮像部3は、後述するように、専用の接続ケーブルを介してカメラ本体部2に接続することができるようになっている。

【0018】撮像部3は、レンズ窓が設けられた端面（図1で上側の端面）を前端とすると、図4の仮想線で示すように、前端がカメラ本体部2の上面と平行となる位置（撮像方向が図4のA方向となる位置。以下、この位置を回転基準位置という。）を基準として略±(90+α)°の範囲で回動することができるようになっている。撮像部3がカメラ本体部2に直接、接続された状態では、撮像部3の回転動作によりデジタルカメラ1のメイン電源のON/OFFが行なわれ、撮像部3が回転基準位置にセットされると（図1～図5の状態）、メイン

電源がOFFになるようになっている。これは、デジタルカメラ1が最もコンパクトになる構成で、通常、この状態でデジタルカメラ1の保管が行なわれるから、自動的にメイン電源をOFFすることによりメイン電源のスイッチ操作の容易化を図るようにしたものである。

【0019】撮像部3は、マクロズームからなる撮影レンズ及びCCD(Charge Coupled Device)等の光電変換素子からなる撮像装置を有し、被写体の光学像を電気信号からなる画像（CCDの各画素で光電変換された電荷信号により構成される画像）に変換して取り込むものである。一方、カメラ本体部2は、LCD(Liquid Crystal Display)からなる表示部10、ICカード18の装着部17（図8参照）及びパソコン用USB端子を有し、主として上記撮像部3で取り込まれた画像信号に所定の信号処理を施した後、LCD表示部10への表示、ICカード18への記録、パソコン用USB端子への転送等の処理を行なうものである。

【0020】撮像部3は、カメラ本体部2の高さ方向の長さ寸法と略同一の長さ寸法を有し、かつ、カメラ本体部2の幅寸法と略同一の寸法を有する縦長直方体状の撮像部本体3Aを備え、この撮像部本体3Aの一方側面には撮像部3をカメラ本体部2に装着するための装着部3Bが突設されている。撮像部3は、撮像部本体3Aを一方に長い直方体状とし、保管時にはカメラ本体部2の側面に沿わせてセットできるようしているので、デジタルカメラ1の幅寸法を大きくすることなく光軸方向に長いズームレンズの採用が可能になっている。なお、装着部3Bによる撮像部3のカメラ本体部2への装着機構については後述する。

【0021】撮像部本体3Aの内部には、図6に示すように、マクロズームレンズ301が配設され、このマクロズームレンズ301の後方位置の適所にCCDカラーエリアセンサ303を備えた撮像回路302が設けられている。また、撮像部3内の適所にフラッシュ光の被写体からの反射光を受光する調光センサ305を備えた調光回路304が設けられている。調光センサ305は、装着部3Bの前面に配置されている。

【0022】一方、撮像部本体3Aの外部には、図2に示すように、カメラ本体部2の背面と平行な側面（撮像部3を回転基準位置から+90°回転させたとき、上側となる側面）に上記マクロズームレンズ301のズーム比の変更及びズームとマクロとの切換を行なうためのズームレバー306が設けられ、このズームレバー306より右斜め前方位置に、撮像部3のカメラ本体部2からの離脱を可能にするロック解除レバー307が設けられている。

【0023】ズームレバー306は、横方向（撮像部3の光軸に対して垂直方向）にスライド可能なレバーで、このズームレバー306をズーム位置PZで横方向に左

右にスライドさせてマクロズームレンズ301のズーム比が変更される。また、ズームレバー306を上記ズーム位置PZを越えて右方向にスライドさせ、マクロ位置PMに設定すると、マクロズームレンズ301がマクロレンズに切り換えられる。マクロ位置PMでは、被写体におよそ50cmまで近接して撮影することができる。

【0024】カメラ本体部2の前面には、図1に示すように、左端部の適所にグリップ部4が設けられ、右端部の上部適所に内蔵フラッシュ5が設けられている。また、カメラ本体部2の上面には、図3に示すように、略中央に記録画像を再生する際のコマ送り用のスイッチ6、7が設けられている。スイッチ6は、記録画像をコマ番号が増大する方向（撮影順の方向）にコマ送りするためのスイッチ（以下、UPスイッチという。）であり、スイッチ7は、記録画像をコマ番号が減少する方向にコマ送りするためのスイッチ（以下、DOWNスイッチという。）である。また、背面側からみてDOWNスイッチ7の左側にICカード18に記録された画像を消去するための消去スイッチ8が設けられ、UPスイッチ6の右上にシャッタボタン9が設けられている。

【0025】カメラ本体部2の背面には、図2に示すように、左端部の略中央に撮影画像のモニタ表示（ビューファインダーに相当）及び記録画像の再生表示等を行なうためのLCD表示部10が設けられている。また、LCD表示部10の上方位置にフラッシュ発光に関するFLモード設定スイッチ11が設けられ、LCD表示部10の下方位置に、ICカード18に記録される画像データの圧縮率Kを切換設定するための圧縮率設定スイッチ12とパーソナルコンピュータが外部接続される接続端子13とが設けられている。FLモード設定スイッチ11は、プッシュスイッチからなり、圧縮率設定スイッチ12は、2接点のスライドスイッチからなる。

【0026】デジタルカメラ1には、フラッシュ発光に関するモードとして被写体輝度に応じて自動的に内蔵フラッシュ5を発光させる「自動発光モード」、被写体輝度に関係なく内蔵フラッシュ5を強制的に発光させる

「強制発光モード」及び内蔵フラッシュ5の発光を禁止する「発光禁止モード」が設けられ、上記FLモード設定スイッチ11を押す毎に「自動発光」、「強制発光」及び「発光禁止」の各モードがサイクリックに切り換わり、いずれかのモードが選択設定されるようになっている。また、デジタルカメラ1は、1/8と1/20の2種類の圧縮率Kが選択設定可能になされ、例えば圧縮率設定スイッチ12を右にスライドすると、圧縮率K=1/8が設定され、左にスライドすると、圧縮率K=1/20が設定される。なお、本実施の形態では、2種類の圧縮率Kが選択設定できるようにしているが、3種類以上の圧縮率Kを選択設定できるようにしてもよい。

【0027】更に、カメラ本体部2の背面の右端上部には、「撮影モード」と「再生モード」とを切換設定する

撮影／再生モード設定スイッチ14が設けられている。撮影モードは、写真撮影を行なうモードであり、再生モードは、ICカード18に記録された撮影画像をLCD表示部10に再生表示するモードである。撮影／再生モード設定スイッチ14も2接点のスライドスイッチからなり、例えは右にスライドすると、再生モードが設定され、左にスライドすると、撮影モードが設定される。

【0028】カメラ本体部2の底面には、図8に示すように、電源電池Eの電池装填室16とICカード18のカード装填室17とが設けられ、両装填室16、17の装填口は、図7に示すように、クラムシェルタイプの蓋15により閉塞されるようになっている。本実施の形態におけるデジタルカメラ1は、4本の単三形乾電池E1～E4を直列接続してなる電源電池Eを駆動源としており、カメラ本体部2の下部には、各電池E1～E4が装填される4個の円筒状の装填室を一列に配列してなる電池装填室16が下面中央よりやや右側にずれた位置に横方向に配設されている。また、電池装填室16より前面側に電池装填室16と平行に帯状の装填口を有するカード装填室17が配設されている。

【0029】蓋15の裏面（装填室16、17を臨む面）の上記電池装填室16に対向する位置には、電池E1、E2を接続する導電性の接続片15aと電池E3、E4を接続する導電性の接続片15bとが設けられ、蓋15を閉塞すると、接続片15a、15bと電池E1～E4とが接触して電源電池Eが構成されるようになっている。

【0030】本実施の形態に係るデジタルカメラ1では、上記のように、電池装填室16の蓋とカード装填室17の蓋とを共通化しているので、両装填室の配置がコンパクトになるとともに、装着脱時のICカード18の保護が確実に行なえるようになっている。すなわち、ICカード18の装着時においては、ICカード装着後に蓋15を閉塞することにより電源電池Eが内部回路に接続され、ICカード18の脱着時においては、ICカード脱着前に蓋15を開放することにより電源電池Eの内部回路との接続が解除されるので、確実に、電源OFFの状態でICカード18の装着脱を行なうことができる。

【0031】次に、撮像部3のカメラ本体部2への装着機構について説明する。正面から見てカメラ本体部2の右側面には、図9に示すように、撮像部3が着脱可能に装着される接続板23が、右側面と平行な平面内に回動自在に設けられている。この接続板23の回動によりカメラ本体部2に取り付けられた撮像部3が回転基準位置を基準として略±(90+α)°の範囲で回動する。

【0032】装着部3Bの装着面308には、図10に示すように、周縁適所に4個の係合爪310a～310dが突設された長方形状の孔309が設けられ、この孔309に上記接続板23を嵌入して撮像部3がカメラ本

体部2に装着されるようになっている。

【0033】また、図11に示すように、ロック解除レバー307の裏面には装着面308に装着された接続板23をロックするキーボルト311が突設されている。ロック解除レバー307は、キーボルト311を装着部3Bの側壁を貫通し、孔309側に臨ましめて装着部3Bを取り付けられている。また、ロック解除レバー307は、キーボルト311が孔309の開口面に接離する方向に移動可能に取り付けられている。ロック解除レバー307を操作することにより、キーボルト311は、孔309の開口面側に設けられたロック位置と開口面より奥側に設けられたロック解除位置とに移動可能になっている。ロック解除レバー307は、スプリング312によりロック位置に付勢されており、このスプリング312の付勢力に抗してロック解除位置に移動させると、接続板23を介してカメラ本体部2に装着された撮像部3を離脱することができるようになっている。

【0034】上記接続板23の装着面には複数の接続端子234が設けられる一方、上記装着部3Bの孔309内に上記接続板23の装着面の接続端子234に対向して複数の接続端子(図略)が設けられており、接続板23を介して撮像部3をカメラ本体部2に取り付けると、撮像部3とカメラ本体部2とが上記接続端子234を介して電気的に接続されるようになっている。

【0035】接続板23には、両長辺の適所に長方形形状の凹部231a, 231bが突設され、接続端子234が設けられていない面(以下、この面を裏面といふ。)の一方の両隅部と上記凹部231a, 231bに連続する位置に、それぞれ溝を形成して装着部3Bの係合爪310a～310dがそれぞれ係合する係合部232a, 232b, 232c, 232dが設けられている。また、接続端子234が設けられた面(以下、この面を表面といふ。)には、凹部231aが穿設された長辺の適所に溝を形成して装着部3Bのキーボルト311が嵌入係合される係合部233が設けられている。

【0036】撮像部3の装着部3Bは、以下の手順でカメラ本体部2の接続板23に取り付けられる。すなわち、まず、孔309の係合爪310c, 310dがそれぞれ接続板23の凹部231a, 231bに対向するように、装着部3Bの装着面308を接続板23と平行に配置した後、装着部3Bを接続板23に押し当てる。このとき、係合爪310c, 310dがそれぞれ接続板23の凹部231a, 231bに嵌入する一方、キーボルト311が接続板23の表面に押されてスプリング312の付勢力に抗してロック解除位置に移動し、装着部3Bは、接続板23の裏面が装着部3Bの装着面308と同一になるまで押し当たられる。この後、装着部3Bを後端側(図10のB方向)に移動させると、装着部3Bの係合爪310a～310dがそれぞれ接続板23の係合部232a～232dに係合して装着部3Bが接続板2

3に離脱不能に装着されるとともに、キーボルト311がスプリング312の付勢力によりロック位置に移動して係合部233に嵌入し、接続板23への撮像部3の取付状態がロックされる。

【0037】なお、撮像部3の接続板23からの取外しは、ロック解除レバー307を装着面308から離れる方向(図11のC方向)に操作してキーボルト311をロック解除位置に移動させ、キーボルト311と係合部233との係合を解除し、この状態で装着部3Bを接続板23に対してB方向と逆方向に相対移動させた後、装着部3Bを接続板23から離隔する方向に移動させることにより行なわれる。

【0038】次に、接続板23のカメラ本体部2への取付構造を説明する。図12は、接続板ユニットの構造を示す分解斜視図である。接続板ユニットは、接続板23、基板24、補強板25、摺動リング26、回転支持部材27及びクリック部材28から構成されている。

【0039】接続板23の裏面には凹部235が設けられ、この凹部235内に接続端子234及びこの接続端子234に接続される信号線路が形成された基板24が収納されている。また、接続板23の裏面には、長手方向の中心軸上の下方向に偏心した位置に、一部側面がカットされ、中心軸上に雌ネジ(図略)が形成された柱状の雌ネジ部236が突設されている。

【0040】雌ネジ部236の側面カット部分は、上記信号線路をカメラ本体部2内に導くスペースを設けるためのものである。また、接続板23における雌ネジ部236の位置を中心より下方向に偏心させているのは、撮像部3を回転基準位置から回転させた状態でデジタルカメラ1を机等に載置した場合にもカメラ姿勢の安定性を確保するためである。

【0041】すなわち、図16において、撮像部3が回転基準位置にあるとき、撮像部3及びカメラ本体の重心位置がほぼカメラ本体部の縦方向の中心ラインM上にあるとすると、例えば撮像部3を回転基準位置から+90°回転した位置(以下、この位置を正面撮像位置といふ。)に回転すると、撮像部3の重心位置Gはカメラの幅方向において中心ラインMよりカメラの前方に移動し、これによりカメラ本体部2に対してカメラ本体部2の底面を支点として前方に回転させるモーメントが作用するようになる。

【0042】接続板23の雌ネジ部236は、カメラ本体部2に接続された撮像部3の回転軸となるものであり、図17に示すように、この回転軸の位置N'を上記モーメントの支点となるカメラ本体部2の底面に近づけるほど、モーメントは小さくなり、安定性が高くなるから、本実施の形態では、接続板23の雌ネジ部236ができるだけカメラ本体部2の右側面の長手方向の中心位置Nより下方向にずらせるようにしている。

【0043】本実施の形態では、撮像部3を縦方向の直

方体状とし、光軸方向に長い撮像光学系を採用しているので、光軸方向に短い撮像光学系を採用したものよりも上記モーメントが大きくなる。従って、上記構成により、撮像部3を正面撮像位置に設定した状態でデジタルカメラ1を机等に載置して撮像する場合にもカメラ姿勢を安定に保持することができるようになっている。

【0044】図12に戻り、補強板25は、基板24が収納された接続板23の凹部235を封止するとともに、接続板23を補強するものである。補強板25の適所には接続板23の雌ネジ部236が貫通する貫通孔251が穿設され、この貫通孔251の下方位置の適所に、摺動リング26の鈍部262に突設された係合突起264が係合する係合孔252が穿設されている。

【0045】摺動リング26は、接続板23の回転動作における回転角度を規制するものである。摺動リング26は、側面の一方端に段差を有する鈍部262が形成された円板状のリング部材からなる。摺動リング26の段差のある側を表面とすると、摺動リング26の中央のリング部261の表面側の適所には、図13に示すように、切欠261Aが形成され、この切欠261Aを基準として±(90+α)の角度に亘り、リング部261の側面に沿って鈍部262にC字状の溝263が穿設されている。上記切欠261Aは、後述するクリック部材28に設けられた係合突起が係合されるものである。また、上記溝263は、後述する回転支持部材27に設けられたガイドピン275が遊嵌される案内溝である。

【0046】また、鈍部262の周縁部の表面には、上記切欠261Aと同一方向に切欠262Aが形成されるとともに、+90°の方向に切欠262Aより中心O側に位置をずらせて切欠262Bが形成されている。切欠262Aは、接続板23に装着された撮像部3が回転基準位置にセットされたことを検出してメイン電源をオフにするためのものであり、切欠262Bは、接続板23に装着された撮像部3が正面撮像位置にセットされ、その撮像（光軸）方向が内蔵フラッシュ5の発光（光軸）方向と平行になっていることを検出するためのものである。また、鈍部262の裏面の上記切欠261Aと反対方向の適所に補強板25の係合孔252に係合する係合突起264が突設されている。

【0047】回転支持部材27は、接続板23の回転を支持するとともに、接続板ユニットをカメラ本体部2の右側面に取り付けるための部材である。回転支持部材27は、円板状の支持部271の上下に矩形板状の取付部272, 272'を形成してなるもので、取付部272, 272'の四隅をネジ止めして接続板ユニットがカメラ本体部2の右側面に取り付けられるようになっている。支持部271の中心を通る回転支持部材27の長手方向の中心軸の上方向（図12のD方向）を基準方向とすると、回転支持部材27は、基準方向をカメラ本体部2に対する撮像部3の回転基準の方向（図4のA方向）

に一致させてカメラ本体部2に取り付けられる。

【0048】回転支持部材27の支持部271には摺動リング26のリング部261が貫通する孔273が穿設されている。支持部271のカメラ本体部2の内側に臨む面（図12において左側の面。以下、内側面といふ。）には、孔273の周りに環状の縁部274が突設され、支持部271の外側に臨む面（以下、外側面といふ。）には、摺動リング26の鈍部262が嵌合される凹部（図12では見えていない）が形成されている。

【0049】上記縁部274の外周面の基準方向に対して±90°方向及び180°方向の位置にU字形の小溝274a～274cが形成されている。この小溝274a～274cは、接続板23に装着された撮像部3の回転動作を回転基準位置と回転基準位置に対して±90°回転した位置とに一時停止させるためのものである。

【0050】支持部271の内側面の基準方向の適所に、接続板23が回転支持部材27と同一方向（接続板23の長手方向の中心軸方向（図12のE方向）が回転支持部材27のD方向と一致する方向）となる位置でメイン電源をオフにするスイッチ29と、接続板23が回転支持部材27に対して+90°回転した位置にあることを検出するスイッチ30とが設けられている。接続板23が回転支持部材27と同一方向となる位置は、接続板23に装着された撮像部3が回転基準位置にセットされる位置であり、接続板23が回転支持部材27に対して+90°回転した位置は、接続板23に装着された撮像部3が正面撮像位置にセットされる位置である。

【0051】従って、スイッチ29は、撮像部3が回転基準位置にセットされると、メイン電源をオフにし、撮像部3が回転基準位置以外にセットされると、メイン電源をオンにする。また、スイッチ30は、撮像部3が正面撮像位置にセットされたことを検出するスイッチとなっている。

【0052】また、支持部271の外側面に形成された凹部の基準方向の適所に、摺動リング26の溝263に遊嵌するガイドピン275が突設されている。

【0053】ここで、スイッチ29, 30の位置検出動作について簡単に説明する。図14は、スイッチ29の位置検出状態を示す要部断面図であり、図15は、スイッチ30の位置検出状態を示す要部断面図である。

【0054】スイッチ29, 30はモメンタリープッシュスイッチからなる。回転支持部材27の凹部に摺動リング26が嵌合された状態においては、スイッチ29のレバー29Aは摺動リング26の鈍部262の切欠262Aを通るトラック（図13のTR1参照）上に位置し、スイッチ30のレバー30Aは摺動リング26の鈍部262の切欠262Bを通るトラック（図13のTR2参照）上に位置している。

【0055】スイッチ29は、接続板23が回転基準位置以外にあるときは、鈍部262によりレバー29Aが

スイッチ本体29Bに没入され、オン状態となっているが（図15参照）、接続板23が回転基準位置に移動すると、レバー29Aが切欠262Aに嵌入してスイッチ本体29Bから突出するので、オフ状態となる（図14参照）。スイッチ29は、メイン電源（電源電池E）の供給線路上に設けられており、オン状態で給電線路を開成して電源を供給し、オフ状態で給電線路を開成して電を遮断する。

【0056】同様に、スイッチ30は、接続板23が正面撮像位置以外にあるときは、鈍部262によりレバー30Aがスイッチ本体30Bに没入され、オン状態となっているが（図14参照）、接続板23が正面撮像位置に移動すると、レバー30Aが切欠262Bに嵌入してスイッチ本体30Bから突出するので、オフ状態となり（図15参照）、このオフ信号により接続板23が正面撮像位置にあることが検出される。

【0057】なお、本実施の形態では、接続板23の正面撮像位置の検出素子としてメカニカルスイッチを用いているが、光センサや磁気センサを用いて接続板23の回転位置を検出するようにしてもよい。また、エンコーダにより接続板23の任意の回転位置を検出するようにしてもよい。

【0058】図12に戻り、クリック部材28は、接続板23及び摺動リング26を回転支持部材27の支持部271に回転可能に支持するものである。クリック部材28は筒状の部材からなり、一方端の周縁に摺動リング26の切欠261Aに係合する係合突片281が設けられるとともに、この係合突片281の反対位置に、接続板23が回転基準位置と正面撮像位置とに設定されたとき、回転支持部材27の支持部271に設けられた小溝274a～274cに没入してクリック感を与える突部282が設けられている。また、筒状体の上記突部282が設けられた側面に、断面コ字型の配線保持部283が形成されている。この配線保持部283は、カメラ本体部2から回転支持部材27の孔273、摺動リング26のリング部261及び補強板25の貫通孔251を通して接続板23に配線される信号線路の案内と保持とを行なうものである。

【0059】クリック部材28の貫通孔284には一方端の近傍位置に段差284aが設けられ、貫通孔284に嵌入されたネジ31を接続板23の雌ネジ部236に螺合してクリック部材28と接続板23とが固着されるようになっている。

【0060】上記構成において、凹部235に基板24が配設され、補強板25が取り付けられた接続板23は、リング部261に雌ネジ部236を貫通させ、かつ、係合突起264を係合孔252に係合させて摺動リング26が取り付けられ、更に、この状態で支持部271のガイドピン275が溝263を貫通するように摺動リング26のリング部261を孔273に嵌入して、回

転支持部材27の外側面に取り付けられる。

【0061】そして、回転支持部材27の内側面に、係合突片281を孔273を通して摺動リング26の切欠261Aに係合するとともに、突部282を支持部271の縁部274の外周面に当接させ、この状態で、貫通孔284にネジ31を挿入し、このネジ31を接続板23の雌ネジ部236に螺合してクリック部28と接続板23とが回転支持部材27に対して一体回転可能に固着され、これにより接続板ユニットが完成する。そして、この接続板ユニットは、正面から見てカメラ本体部2の右側面に、回転支持部材27の取付部272、272'の両隅部をネジ止めして取り付けられる。

【0062】接続板ユニットをカメラ本体部2の右側面に取り付けた状態で、接続板23が回転基準位置にあるときは、上記のようにスイッチ29がオフ状態となるので、撮像部3を回転基準位置に設定することによりメイン電源が自動的にオフになり、撮像部3を回転基準位置以外に設定することによりメイン電源が自動的にオンになる。

【0063】撮像部3を回転基準位置から回転させると、接続板23、摺動リング26及びクリック部材28が一体回転し、回転基準位置から±90°回転した位置に至ると、クリック部材28の突部282が回転支持部材27の小溝274a又は小溝274bに没入して撮像部3がその位置に保持される。

【0064】このように、回転基準位置及び±90°回転した位置では撮像部3の自由な回転を停止させ、その停止状態を保持させるようにしているので、保管時や正面撮像位置でのセルフタイマ撮影でデジタルカメラ1の姿勢を安定に保つことができる。

【0065】また、撮像部3が正面撮像位置に回転したときは、上記のようにスイッチ30からオフ信号が出力されるので、このオフ信号により撮像部3の撮像方向が内蔵フラッシュ5の発光方向に一致していることが検出される。スイッチ30からの出力信号は、後述するように、デジタルカメラ1の内蔵フラッシュ5の発光制御に使用され、スイッチ30からオフ信号が出力されると

（すなわち、撮像部3の撮像方向が内蔵フラッシュ5の発光方向にセットされると）、内蔵フラッシュ5の発光が許可され、オン信号が出力されると（すなわち、撮像部3の撮像方向が内蔵フラッシュ5の発光方向と異なる方向にセットされると）、内蔵フラッシュ5の発光が禁止される。

【0066】撮像部3が正面撮像位置に設定されていないとき、内蔵フラッシュ5の発光を強制的に禁止するのは、本実施の形態ではカメラ本体部2に内蔵フラッシュ5が設けられているので、撮像方向とフラッシュの発光方向とが一致していないときは、撮像される範囲とフラッシュが照射される範囲とがずれてしまうので、撮影範囲内の被写体をむらなくフラッシュ光で照射すること

ができます、好適なフラッシュ撮影を行なうことができなくなるからである。

【0067】撮像部3が回転基準位置から±90°を越えて所定の角度 α °回転されると、回転支持部材27のガイドピン275が摺動リング26の溝263の両端に当接して接続板23の回転動作が規制され、これにより撮像部3は回転基準位置±(90+ α)°の範囲で回転可能となる。

【0068】なお、本実施の形態では、撮像部3をカメラ本体部2の右側面に取り付けているが、カメラ本体部2の左側面に取り付けるようにしてもよい。

【0069】ところで、上述の説明は、撮像部3が直接、カメラ本体部2に装着される場合の構成であったが、撮像部3は、専用の接続ケーブルを介してカメラ本体部2に接続することができる。

【0070】図18は、接続部3をカメラ本体部2に接続するための接続ケーブルの外観図である。

【0071】接続ケーブル32は、1m乃至数mのケーブル長を有するケーブル321の一方端に接続板23と同一の接続構造を有する接続部322が設けられ、他方端に撮像部3の装着部3Bと同一の接続構造を有する接続部323を設けられたものである。装着部3の装着部3Bに接続される接続部322と接続板23に接続される接続部323の内部には、図19に示すように、撮像信号の線路上に、それぞれバッファアンプ33と、例えばゲイン6dBの增幅回路34とが設けられている。バッファアンプ33と増幅回路34とは、カメラ本体部2から撮像部3に電源を供給するための電源ラインにより駆動電源が供給されるようになっている。なお、抵抗R1、R2は、インピーダンスマッチング用の抵抗である。

【0072】バッファアンプ33は、撮像部3の出力のインピーダンス変換を行なってケーブル321を伝送する間の撮像信号の波形歪みを低減するものであり、増幅回路34は、インピーダンス整合による撮像信号の減衰を補償するものである。すなわち、バッファアンプ33を設けなかった場合、図20(a) (c)に示すように、ケーブル321の出力端における撮像信号S_{G2}は、ケーブル321の入力端における撮像信号S_{G1}に比して著しく波形が歪み、減衰したものとなるが、バッファアンプ33及び増幅回路34を設けることにより、上記波形歪みが低減されるとともに、レベル低下が補償されるので、ケーブル321の出力端における撮像信号を、同図(b)のS_{G2'}のように改善することができる。これによりカメラ本体部2内における撮像信号のA/D変換その他の信号処理を容易かつ正確にし、撮像画像の画質低下を防止するようにしている。

【0073】なお、バッファアンプ33及び増幅回路34のいずれか一方若しくは両方をそれぞれ撮像部3とカメラ本体部2の内部に設けるようにしてもよいが、この

場合は、撮像部3及びカメラ本体部2内の回路構成が増大するとともに、接続ケーブルの有無に関係なくバッファアンプ33及び増幅回路34に電源が供給され、不必要に電力が消費されるので、好ましくは、本実施の形態のように、接続ケーブル内に設けるほうがよい。

【0074】図21は、デジタルカメラ1のブロック図である。同図は、カメラ本体部2と撮像部3とを接続ケーブル32により接続した場合のブロック図である。同図において、図1～図9に示した部材と同一部材には同一の番号を付している。

【0075】撮像部3内のマクロズームレンズ301には開口量が固定された絞り部材（固定絞り）が設けられている。また、信号処理回路313及びタイミングジェネレータ(T·G)314は、上記撮像回路34の構成要素である。CCDエリアセンサ303（以下、CCD303と略称する。）は、CCDカラーエリアセンサからなる撮像素子で、マクロズームレンズ301により結像された被写体の光像を、R（赤）、G（緑）、B（青）の色成分の画像信号（各画素で受光された画素信号の信号列からなる信号）に光電変換して出力する。タイミングジェネレータ314は、CCD303の駆動を制御するための各種のタイミングパルスを生成するものである。

【0076】撮像部3における露出制御は、絞りが固定絞りとなっているので、CCD303の露光量、すなわち、シャッタースピードに相当するCCD303の電荷蓄積時間を調節して行なわれる。被写体輝度が低輝度時に適切なシャッタースピードが設定できない場合は、CCD303から出力される画像信号のレベル調整を行なうことにより露光不足による不適正露出が補正される。すなわち、低輝度時は、シャッタースピードとゲイン調整とを組み合わせて露出制御が行なわれる。画像信号のレベル調整は、後述する信号処理回路313内のAGC回路のゲイン調整において行なわれる。

【0077】タイミングジェネレータ314は、カメラ本体部2から接続ケーブル32若しくは接続板23を介して送信される基準クロックCLK0に基づきCCD303の駆動制御信号を生成するものである。タイミングジェネレータ314は、例えば積分開始／終了（露出開始／終了）のタイミング信号、各画素の受光信号の読出制御信号（水平同期信号、垂直同期信号、転送信号等）等のクロック信号を生成し、CCD303に出力する。

【0078】信号処理回路313は、CCD303から出力される画像信号（アナログ信号）に所定のアナログ信号処理を施すものである。信号処理回路313は、CDS（相関二重サンプリング）回路とAGC（オートゲインコントロール）回路とを有し、CDS回路により画像信号のノイズの低減を行ない、AGC回路のゲインを調整することにより画像信号のレベル調整を行なう。なお、AGC回路のゲインは、制御部211により接続ケ

一ブル3 2若しくは接続板2 3を介して自動設定される。

【0079】調光回路3 0 4は、フラッシュ撮影における内蔵フラッシュ5の発光量を制御部2 1 1により接続ケーブル3 2若しくは接続板2 3を介して設定された所定の発光量に制御するものである。フラッシュ撮影においては、露出開始と同時に被写体からのフラッシュ光の反射光が調光センサ3 0 5により受光され、この受光量が所定の発光量に達すると、調光回路3 0 4から接続ケーブル3 2若しくは接続板2 3を介してカメラ本体部2内に設けられたFL制御回路2 1 4に発光停止信号S TPが出力される。FL制御回路2 1 4は、この発光停止信号S TPに応答して内蔵フラッシュ5の発光を強制的に停止し、これにより内蔵フラッシュ5の発光量が所定の発光量に制御される。

【0080】スイッチS_{MACRO}は、マクロズームレンズ3 0 1がマクロレンズに切り換えられたことを検出するスイッチである。スイッチS_{MACRO}は、ズームレバー3 0 6がマクロ位置PMに設定されると、オンになる。

【0081】スイッチS_{MAIN}は、デジタルカメラ1の電源スイッチで、上記スイッチ2 9に相当するものである。スイッチS_{MAIN}は、撮像部3が回転基準位置に設定されているとき、オフになり、撮像部3が回転基準位置以外の位置に設定されているとき、オンになる。

【0082】また、スイッチS_{CPOS}は、撮像部3が正面撮像位置に設定されていることを検出するスイッチで、上記スイッチ3 0に相当するものである。スイッチS_{CPOS}は、撮像部3が正面撮像位置に設定されると、オンになる。スイッチS_{MAIN}, S_{MACRO}, S_{CPOS}の検出信号は接続ケーブル3 2若しくは接続板2 3を介して制御部2 1 1に入力される。

【0083】接続ケーブル3 2には、接地された接続端子f 1が設けられている。この接続端子f 1は、制御部2 1 1に接続ケーブル3 2の接続信号を入力するためのものである。すなわち、制御部2 1 1の接続端子f 1が接続される端子dは、制御部2 1 1に電源が供給されると、ハイレベルに設定されるようになされ、カメラ本体部2に接続ケーブル3 2が接続されると、ローレベルの接続信号が入力される。制御部2 1 1は端子dのローレベル状態により接続ケーブル3 2の接続を識別する。

【0084】カメラ本体部2内において、A/D変換器2 0 5は、撮像部3から接続ケーブル3 2を介して入力された画像信号の各画素信号を10ビットのデジタル信号に変換するものである。A/D変換器2 0 5は、A/Dクロック発生回路2 0 3から入力されるA/D変換用のクロックCLK 2に基づいて各画素信号(アナログ信号)を10ビットのデジタル信号に変換する。

【0085】カメラ本体部2内には、基準クロックCLK 0を発生する基準クロック発生回路2 0 1、タイミングジェネレータ3 1 4に対するクロックCLK 1を生成

するT・Gクロック発生回路2 0 2及びA/D変換器2 0 5に対するクロックCLK 2を生成するA/Dクロック発生回路2 0 3が設けられている。更に、A/Dクロック発生回路2 0 3は内部に遅延回路2 0 4を備えている。

【0086】基準クロック発生回路2 0 1、T・Gクロック発生回路2 0 2及びA/Dクロック発生回路2 0 3の駆動は、制御部2 1 1により制御される。T・Gクロック発生回路2 0 2は、基準クロックCLK 0に基づきクロックCLK 1を生成し、このクロックCLK 1を接続板2 3若しくは接続ケーブル3 2を介して撮像部3内のタイミングジェネレータ3 1 4に出力する。

【0087】また、A/Dクロック発生回路2 0 3は、撮像部3が接続板2 3を介してカメラ本体部2に接続されているときは、基準クロックCLK 0に基づきA/D変換用のクロックCLK 2を生成し、このクロックCLK 2をA/D変換器2 0 5に出力し、撮像部3が接続ケーブル3 2を介してカメラ本体部2に接続されているときは、A/Dクロック発生回路2 0 3により基準クロックCLK 0に基づきクロックCLK 2より所定時間Δtだけ遅延したクロックCLK 2'を生成し、このクロックCLK 2'をA/D変換器2 0 5に出力する。接続ケーブル3 2の有無の情報は、制御部2 1 1からA/Dクロック発生回路2 0 3に入力され、A/Dクロック発生回路2 0 3は、この情報に基づきクロックCLK 2又はCLK 2'のいずれかを生成する。

【0088】上記遅延時間Δtは、接続ケーブル3 2がない場合のA/D変換器2 0 5に入力される画像信号S_{G2}(撮像部3から出力される画像信号S_{G1}と略同一の信号)と接続ケーブル3 2がある場合のA/D変換器2 0 5に入力される画像信号S_{G2'}と位相差に相当する時間である。この遅延時間Δtは、接続ケーブル3 2の長さが一定であれば、一定であるので、遅延回路2 0 4に予め設定されている。

【0089】従って、撮像部3が接続ケーブル3 2を介してカメラ本体部2に接続されているとき、図2 2に示すように、接続ケーブル3 2がない場合のA/D変換器2 0 5に入力される画像信号S_{G2}と接続ケーブル3 2がある場合のA/D変換器2 0 5に入力される画像信号S_{G2'}との間には位相差θが生じるが、クロックCLK 2'をクロックCLK 2よりθだけ遅延させて画像信号S_{G2'}の各画素信号に同期させるようにしているので、画像信号S_{G2}のA/D変換を正確かつ確実に行なうことができるようになっている。

【0090】なお、図2 2において、g(i)(i=1, 2, ...)は、画像信号を構成する各画像信号を示している。また、A/D変換はクロックCLK 2, CLK 2'の立上りタイミングで行なわれ、クロックCLK 2, CLK 2'は、立上りタイミングが各画素信号g(i)の略中央となるようにA/D変換器2 0 5に入力される。本

実施の形態は、ケーブル長が1種類の場合のものであるが、長さの異なる複数の接続ケーブル32が用意されている場合は、各接続ケーブル32毎に位相差θが異なるので、各接続ケーブル32に対応する複数の遅延時間Δtを遅延回路204に記憶しておき、接続された接続ケーブル32に応じて遅延回路204の遅延時間Δtを選択的に設定するようになるとよい。この場合、各接続ケーブル32に一部若しくは全てが接地された2個以上の接続端子f1, f2, …を設け、接続端子f1, f2, …の接地情報から接続された接続ケーブル32の種類を識別し、遅延回路204の遅延時間Δtを接続された接続ケーブル32に対応する所定の時間に自動設定するようになるとよい。例えば2個の接続端子f1, f2を設けた場合、接続端子(f1, f2)の接地側を「1」、開放側を「0」で表すと、(f1, f2) = (1, 0)、(0, 1)、(1, 1)の3種類の組み合わせが考えられるから、接続端子(f1, f2)の接地情報から長さの異なる3種類の接続ケーブル32を識別し、接続端子(f1, f2)の接地情報に基づき使用された接続ケーブル32に対応する遅延時間Δtを自動設定することができる。

【0091】また、本実施の形態では、クロックCLK2を遅延してクロックCLK2'を生成するようにしていたが、クロックCLK2の位相をシフトしてクロックCLK2'を生成するようにもよく、基準クロックCLK0の分周タイミングを制御してクロックCLK2'を直接、生成するようにもよい。

【0092】黒レベル補正回路206は、A/D変換された画素信号（以下、画素データという。）の黒レベルを基準の黒レベルに補正するものである。また、WB回路207は、γ補正後にホワイトバランスも合わせて調整されるように、R, G, Bの各色成分の画素データのレベル変換を行なうものである。WB回路207は、制御部211から入力される、例えば図23に示す特性を有するレベル変換テーブルを用いてR, G, Bの各色成分の画素データのレベルを変換する。なお、レベル変換テーブルの各色成分の変換係数（特性の傾き）は制御部211により撮影画像毎に設定される。

【0093】γ補正回路208は、画素データのγ特性を補正するものである。γ補正回路208は、図24に示すように、γ特性の異なる6種類のγ補正テーブルを有し、後述する撮影シーンや撮影条件に応じて所定のγ補正テーブルにより画素データのγ補正を行なう。なお、このγ補正処理において、10ビットの画素データは、8ビット（256階調）の画素データに変換される。γ補正処理前の画像データを10ビットデータとしているのは、非線形性の強いγ特性でγ補正を行なった場合の画質劣化を防止するためである。

【0094】また、R, G, Bの各色成分の画像データはWB回路207で所定のレベル変換が行なわれてお

り、これらの画像データをそれぞれ上記γ補正テーブルでγ補正することによりγ補正とWB調整とが同時にに行なわれる。

【0095】図24において、特性①は、 $\gamma = 0.45$ のγ特性であり、撮像画像をLCD表示部10（ $\gamma = 2.2$ のγ特性を有する）に表示する際の画像処理に適用されるものである。LCD表示部10は、ビューフィンダーとしての機能を有し、デジタルカメラ1がレリーズの待機状態にあるときは、ビデオカメラと同様にCDC303により1/30（秒）毎に被写体が撮像され、この撮像画像が順次、LCD表示部10にモニタ表示されるようになっている。かかるモニタ表示における撮像画像の画像処理においては、特性①によりγ補正を行い、モニタ画像の画質が好適となるようにしている。

【0096】特性②は、 $\gamma = 0.55$ のγ特性であり、主として中輝度、順光の標準的な撮影シーンの撮影画像をICカード18に記録する際の画像処理に適用されるものである。本デジタルカメラ1は、パーソナルコンピュータ19が外部接続可能になされ、ICカード18に記録された撮像画像は、通常、パーソナルコンピュータ19を介してモニタテレビ（ $\gamma = 1.8$ のγ特性を有する）に再生表示されると考えられるから、レリーズによりICカード18への記録が指示された撮像画像については、特性②によりγ補正を行い、モニタテレビに再生された画像の画質が好適となるようにしている。

【0097】特性③～⑥も撮像画像をICカード18に記録する際の画像処理に適用されるものであるが、撮影シーンや撮影条件に応じて撮像画像の画質をより好適にするために用意されているものである。

【0098】特性③は、特性②よりもγ値を小さくしたものであり、特性④は、特性①の暗黒部におけるγの傾斜を大きくしたものである。また、特性⑤は、γ特性の入力レベルを「高（明）」「中」「低（暗）」の3つの領域に分けた場合、特性②の「低」レベル領域におけるγの傾斜を大きくしたものであり、特性⑥は、「中」レベル領域から「高」レベル領域を特性①よりも圧縮して「低」レベル領域におけるγの傾斜を特性③より大きくしたものである。

【0099】特性①でγ補正が行なわれた撮像画像をモニタテレビに再生した場合の画質を基準に特性③～⑥でγ補正が行なわれた撮像画像をモニタテレビに再生した場合の画質を比較すると、撮像画像を特性③でγ補正した場合は、撮像画像を特性①でγ補正した場合よりも再生画像の画質は軟調となり、コントラストの弱いソフトな画像となるが、ハイライト部分の描写性が高い画像となる。

【0100】また、撮像画像を特性④でγ補正した場合は、撮影画像の暗黒部分が圧縮されるので、特性①でγ補正した場合に比してコントラストはあまり変わらないが、暗黒部の引き締まった画像が得られる。低輝度シ-

ンにおいて、ゲインコントロールにより露出制御が行なわれた場合は、全体的に暗いザラついた画像となり、見辛くなるので、特性④により暗黒部を引き締めることによりかかる画質の劣化を抑制することができる。

【0101】撮像画像を特性⑤で γ 補正した場合は、撮像画像を特性①で γ 補正した場合よりもコントラストは弱くなるが、「中」レベル及び「低(暗)」レベル領域における変換レベルのレンジが広くなるので、撮像画像のハイライト部の階調再現が良好になる。

【0102】撮像画像を特性⑥で γ 補正した場合は、撮像画像を特性①で γ 補正した場合よりもコントラストが強く、しかも暗部の引き締まった画像が得られる。

【0103】図21に戻り、画像メモリ209は、 γ 補正回路208から出力される画素データを記憶するメモリである。画像メモリ209は、1フレーム分の記憶容量を有している。すなわち、画像メモリ209は、CCD303がn行m列の画素を有している場合、 $n \times m$ 画素分の画素データの記憶容量を有し、図25に示すように、各画素データ $G(i, j)$ ($i = 1, 2 \dots n, 1, 2, \dots m$) が対応する画素位置 (i, j) に記憶されるようになっている。

【0104】画像メモリ210は、LCD表示部10に再生表示される画像データのバッファメモリである。画像メモリ210は、LCD表示部10の画素数に対応した画像データの記憶容量を有している。

【0105】撮影待機状態においては、撮像部3により1/30(秒)毎に撮像された画像の各画素データがA/D変換器205～ γ 補正回路208により所定の信号処理を施された後、画像メモリ210に記憶されるとともに、制御部211を介して画像メモリ210に転送され、LCD表示部10に表示される。これにより撮影者はLCD表示部10に表示された画像により被写体像を視認することができる。また、再生モードにおいては、ICカード18から読み出された画像が制御部211で所定の信号処理が施された後、画像メモリ210に転送され、LCD表示部10に再生表示される。

【0106】カードI/F212は、ICカード18への画像データの書き込み及び画像データの読み出しを行なうためのインターフェースである。また、通信用I/F213は、パーソナルコンピュータ19を通信可能に外部接続するための、例えばRS-232C規格に準拠したインターフェースである。

$$BV(1) = 9 \cdot G_{GSAM}(1) / (n \cdot m) \quad \dots (1)$$

但し、

$$\begin{aligned} G_{GSAM}(1) = & \{ G_a(1,1) + G_a(1,2) + G_a(1,m/3) \\ & + G_a(2,1) + G_a(2,2) + \dots + G_a(2,m/3) \\ & \dots \dots \dots \\ & + G_a(n/3,1) + G_a(n/3,2) + \dots + G_a(n/3,m/3) \} \end{aligned}$$

【0114】そして、9個の輝度データBV(i)を用い

【0107】FL制御回路214は、内蔵フラッシュ5の発光を制御する回路である。FL制御回路214は、制御部211の制御信号に基づき内蔵フラッシュ5の発光の有無、発光量及び発光タイミング等を制御し、調光回路304から接続ケーブル32若しくは接続板23を介して入力される発光停止信号STOPに基づき内蔵フラッシュ5の発光量を制御する。

【0108】スイッチS_{UP}、スイッチS_{DOWM}及びスイッチS_{DEL}は、それぞれUPスイッチ6、DOWNスイッチ7、消去スイッチ8に相当するスイッチである。また、スイッチS_{REL}は、シャッタボタン9のレリーズ操作を検出するスイッチであり、スイッチS_{FL}、スイッチS_{COMP}及びスイッチS_{P/R}は、それぞれFLモード設定スイッチ11、圧縮率設定スイッチ12、撮影/再生モード設定スイッチ14に相当するスイッチである。

【0109】制御部211は、マイクロコンピュータからなり、上述した撮像部3内及びカメラ本体部2内の各部材の駆動を有機的に制御してデジタルカメラ1の撮影動作を統括制御するものである。

【0110】また、制御部211は、露出制御値(シャッタースピード(S S))を設定するための輝度判定部211aとシャッタースピード設定部211bとを備えている。輝度判定部211aは、撮影待機状態において、CCD303により1/30(秒)毎に取り込まれる画像を利用して被写体の明るさを判定するものである。すなわち、輝度判定部211aは、画像メモリ209に更新的に記憶される画像データを用いて被写体の明るさを判定するものである。

【0111】輝度判定部211aは、図25に示すように、画像メモリ209の記憶エリアを9個のブロックB(1), B(2), ..., B(9)に分割し、各ブロックB(i) ($i = 1, 2, \dots, 9$) に含まれるG(緑)の色成分の画素データ $G_c(k, h)$ を用いて各ブロックB(i) ($i = 1, 2, \dots, 9$) を代表する輝度データBV(i)を算出する。

【0112】具体的には、G(緑)の色成分の画素データ $G_c(k, h)$ の平均値を算出することにより各ブロックB(i)の輝度データBV(i)が算出される。例えばブロックB(1)の場合、下記(1)式で輝度データBV(1)が算出される。

【0113】

【数1】

て被写体の明るさを判定する。なお、輝度データBV

(i)に基づく被写体の明るさ判定の詳細は、後述する。

【0115】なお、R, G, Bの各色成分の画素データ $G_R(k, h)$, $G_G(k, h)$, $G_B(k, h)$ を用いて各ブロックB(i) ($i = 1, 2, \dots, 9$)を代表する輝度データBV(i)を算出するようにしてもよい。すなわち、各画素位置(k, h)のR, G, Bの各色成分の画素データ G_R, G_G, G_B を所定の比率(例えば $G_R : G_G : G_B = 4 : 5 : 1$)で加算してその画素位置(k, h)の輝度データBV(k, h) ($= 0.4G_R + 0.5G_G + 0.1G_B$)を算出し、これらの輝度データBV(k, h)の平均値を算出することにより各ブロックB(i)の輝度データBV(i)を算出するようにしてもよい。

【0116】シャッタースピード設定部211bは、輝度判定部211aによる被写体の明るさの判定結果に基づいてシャッタースピード(CCD303の積分時間)を設定するものである。シャッタースピード設定部211bは、下記表1に示すシャッタースピードSSのテーブルを有している。

【0117】

【表1】

シャッタースピードSS(秒)

1/10000
1/8192
1/4096
1/2896
1/2435
1/2048
1/1722
1/1448
1/1218
1/1024
1/912
1/812
1/724
1/645
1/575
1/512
1/456
1/408
1/382
1/322
1/287
1/256
1/228
1/203
1/181
1/161
1/144
1/128
1/114
1/102
1/91
1/81
1/72
1/64
1/57
1/51
1/45
1/40
1/36
1/32
1/30

↑
初期設定値
↓
DOWN

【0118】シャッタースピードSSは、カメラ起動時に1/128(秒)に初期設定され、撮影待機状態において、シャッタースピード設定部211bは、輝度判定部211aによる被写体の明るさの判定結果に応じて初期値から高速側若しくは低速側に1段ずつ変更設定する。

【0119】この結果、最初、1/128(秒)のシャッタースピードで撮像された画像に基づき判定された被写体の明るさが、例えば明かる過ぎるときは、シャッタースピードSSを1段分高速にして(すなわち、1/144(秒)に設定して)次の画像が撮像され、再度、この画像に基づき被写体の明るさが判定される。そして、この判定結果が、例えば未だ明かる過ぎるときは、シャッタースピードSSを更に1段分高速にして(すなわち、1/161(秒)に設定して)次の画像が撮像され、以下、被写体の明るさ判定とシャッタースピードSSの再設定とが交互に繰り返されてある時間経過後には適切なシャッタースピードSSが設定される。

【0120】また、制御部211は、撮影シーンに応じ

て適切なシャッタースピードSSの設定、 γ 補正、フィルタリング補正（後述）を行なうために、「低輝度シーン」、「中輝度通常シーン」、「中輝度逆光シーン」及び「高輝度シーン」の4種類の撮影シーンを判定するシーン判定部211cを備えている。「低輝度シーン」は、室内撮影や夜間撮影のように、通常、フラッシュによる補助光を必要とするシーンであり、「中輝度通常シーン」は、主被写体に対する照明光（自然光、人工光を含む）が順光で、かつ、その明るさが適當であるため補助光無しで撮影可能なシーンである。また、「中輝度逆光シーン」は、全体的な明るさは適當であるが、主被写体に対する照明光が逆光のため、フラッシュ発光が好ましいシーンであり、「高輝度シーン」は、例えば晴天の海やスキー場での撮影のように全体的に非常に明かるいシーンである。

【0121】低輝度、中輝度及び高輝度の輝度判定は、レリーズ直前に設定されているシャッタースピードSSに基づいて行なわれる。また、逆光判定は、撮影画面中央のブロックB(5)の輝度データBV(5)とその周辺のブロックB(1)～B(4), B(6)～B(9)の輝度データBV(1)～BV(4), BV(6)～BV(9)とを比較して行なわれる。具体的には、ブロックB(5)の輝度データBV(5)を撮影画面中央の輝度データBV1とし、周辺ブロックB(1)～B(4), B(6)～B(9)の濃度データBV(1)～BV(4), BV(6)～BV(9)の平均値を撮影画面周辺の輝度データBV2 (= {BV(1) + … + BV(4) + BV(6) + … + BV(9)} / 8) とし、両輝度データの輝度差 ΔBV (= BV2 - BV1) が所定の閾値レベル（たとえば256階調の場合、レベル差50）より大きいとき、逆光と判定される。判定された撮影シーンの情報は、例えばフラグ形式でメモリ211dに記憶される。

【0122】更に、制御部211は、撮像画像が風景や人物等の通常の写真撮影の画像（以下、この種の撮影画像を自然画という。）であるか、ボードに描かれた文字、図表等の画像（以下、この種の2値画像に類似した画像を文字画という。）であるかを判定する画像判定部211eを備えている。

【0123】画像判定部211eは、画像メモリ209に記憶された撮像画像を構成する画素データに基づき各画素位置の輝度データBV(i, j)のヒストグラムを作成し、このヒストグラムに基づき撮像画像の内容を判定する。一般に、撮像画像の輝度データBV(i, j) ($i = 1, 2, \dots, n, j = 1, 2, \dots, m$) のヒストグラムは、自然画の場合は、輝度分布の偏りが少なく、図26の点線で示す1つのピーク値を有する、いわゆる1山分布②となるが、例えばホワイトボードに描かれた文字のような文字画の場合は、白地部分と黒の文字部分とにそれぞれ輝度分布の偏りが見られ、図26の実線で示す2山分布①となる。従って、画像判定部211eは、撮像画像の輝度データBV(i, j)のヒストグラムが1

山分布であるか、2山分布であるかを判別することにより撮像画像が自然画であるか、文字画であるかを判別する。そして、この判定結果もメモリ211dに記憶される。なお、画像判定の詳細は、後述する。

【0124】制御部211は、撮影モードにおいて、シャッタボタン9により撮影が指示されると、撮影指示後に画像メモリ209に取り込まれた画像のサムネイル画像と圧縮率設定スイッチ12で設定された圧縮率KによりJPEG (Joint Photographic Coding Experts Group) 方式により圧縮された圧縮画像とを生成し、撮影画像に関するインデックス情報（コマ番号、露出値、シャッタースピード、圧縮率K等の情報）とともに両画像をICカード18に記憶する。

【0125】ICカード18の記憶領域は、図27に示すように、主にTAGエリアAR1、サムネイル画像エリアAR2及び本画像エリアAR3の3つの領域に分割されている。TAGエリアAR1、サムネイル画像エリアAR2及び本画像エリアAR3には、それぞれ各コマの撮影画像に関するインデックス情報とサムネイル画像と圧縮画像とが記録される。

【0126】なお、サムネイル画像は、撮影画像の画素データを間引いて分解能を粗くした小画像である。例えば撮影画像を構成する画素データの総数を 480×640 個とすると、サムネイル画像は、縦横両方に画素数を $1/8$ に削減して生成される。従って、サムネイル画像を構成する画素数は、元の撮影画像の $1/64$ となる。なお、実際にICカード18に記録されるデータ数では、元の撮影画像が圧縮されるので、サムネイル画像のデータ数は、圧縮画像の $1/64$ とはならない。例えば圧縮率K=1/8の場合、サムネイル画像のデータ数は、圧縮画像の $1/8$ ($= 8/64$) となり、圧縮率K=1/20の場合、サムネイル画像のデータ数は、圧縮画像の $1/3.2$ ($= 20/64$) となる。

【0127】制御部211は、上記撮影画像の記録処理を行なうために、フィルタリング処理を行なうフィルタ部211fとサムネイル画像及び圧縮画像を生成する記録画像生成部211gとを備え、ICカード18に記録された画像をLCD表示部10に再生するために、再生画像を生成する再生画像生成部211hを備えている。

【0128】フィルタ部211fは、デジタルフィルタにより記録すべき画像の高周波成分を補正して輪郭に関する画質の補正を行なうものである。フィルタ部211fは、圧縮率K=1/8, 1/20のそれについて、標準的な輪郭補正を行うデジタルフィルタと、この標準的な輪郭補正に対して、輪郭を強める2種類のデジタルフィルタと輪郭を弱める2種類のデジタルフィルタの合計5種類のデジタルフィルタを備えている。

【0129】なお、圧縮率K=1/8, 1/20のそれについて上記5種類のデジタルフィルタを用意しているのは、JPEG方式は非可逆変換のため、圧縮率K

$= 1/20$ の再生画像は圧縮率 $K = 1/8$ の再生画像に比して高周波成分が少なくなり、若干、ピンボケ状態の画像となるので、同一のフィルタ係数を有するデジタルフィルタでフィルタリングを行った場合、圧縮率 $k = 1/20$ の再生画像に縞模様が出るおそれがあるので、かかる弊害を防止するためである。

【0130】圧縮率 $K = 1/8$ の場合の各画素データ G

$$\begin{aligned} G(i, j) = & \{A1 \cdot G(i, j) + A2 \cdot G(i+1, j) + A3 \cdot G(i+1, j+1) + A4 \cdot G(i, j+1) \\ & + A5 \cdot G(i-1, j+1) + A6 \cdot G(i-1, j) + A7 \cdot G(i-1, j-1) + A8 \cdot G(i, j-1) \\ & + A9 \cdot G(i+1, j-1) + A10 \cdot G(i+2, j) + A11 \cdot G(i, j+2) + A12 \cdot G(i-2, j) \\ & + A13 \cdot G(i, j-2)\} / B \quad \dots (2) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} G(i, j) = & \{A1 \cdot G(i, j) + A2 \cdot G(i+1, j) + A3 \cdot G(i+1, j+1) + A4 \cdot G(i, j+1) \\ & + A5 \cdot G(i-1, j+1) + A6 \cdot G(i-1, j) + A7 \cdot G(i-1, j-1) + A8 \cdot G(i, j-1) \\ & + A9 \cdot G(i+1, j-1) + A10 \cdot G(i+2, j) + A11 \cdot G(i, j+2) + A12 \cdot G(i-2, j) \\ & + A13 \cdot G(i, j-2) + A14 \cdot G(i+1, j-2) + A15 \cdot G(i+2, j-1) \\ & + A16 \cdot G(i+2, j+1) + A17 \cdot G(i+1, j+2) + A18 \cdot G(i-1, j+2) \\ & + A19 \cdot G(i-2, j+1) + A20 \cdot G(i-2, j-1) + A21 \cdot G(i-1, j-2)\} / B \quad \dots (3) \end{aligned}$$

【0132】図28に、撮像部3が接続板23を介してカメラ本体部2に接続されている場合の圧縮率 $K = 1/8$ における具体的なフィルタ演算式の一例を示し、図29に、同条件の場合の圧縮率 $K = 1/20$ における具体的なフィルタ演算式の一例を示す。

【0133】両図において、 5×5 のマトリックスは、図30に示すように、画素位置 (i, j) を中心とした周辺24個の画素位置を表すとともに、各マトリックス内に各画素データに対する A1～A21 の係数を表し、上記(2)式及び(3)式における {} 内の加算演算を行うことを示している。また、()内の分数の分母は上記(2)式及び(3)式における数値 B に対応している。

【0134】また、両図において、(a)は標準的な輪郭強調補正の場合、(b)は(a)に対して輪郭強調を1段階弱める場合、(c)は(a)に対して輪郭強調を2段階弱める場合、(d)は(a)に対して輪郭強調を1段階強める場合、(e)は(a)に対して輪郭強調を2段階強める場合、のフィルタ演算式である。

【0135】なお、撮像部3が接続ケーブル32を介してカメラ本体部2に接続されている場合は、接続ケーブル32を伝送する間の画素データの劣化を考慮して、図28及び図29において、係数 A4, A8 をこの係数 A4, A8 から「1」をひいた係数 A4' ($= A4 - 1$), A8' ($= A8 - 1$) に修正するとともに、除数 B をこの除数 B から「2」を引いた除数 B' ($= B - 2$) に修正した演算式が適用される。従って、撮像部3が接続ケーブル32を介してカメラ本体部2に接続されている場合、例えば圧縮率 $k = 1/8$ における標準的なフィルタリング処理は、図31(a)に示すフィルタ演算式により行なわれ、圧縮率 $k = 1/20$ における標準

(i, j) のフィルタリング処理は、下記(2)式により行われ、圧縮率 $K = 1/20$ の場合の各画素データ G (i, j) のフィルタリング処理は、下記(3)式により行われる。なお、下記(2)式、(3)式において、A11～A21 はフィルタ係数である。

【0131】

【数2】

的なフィルタリング処理は、図31(b)に示すフィルタ演算式により行なわれる。

【0136】記録画像生成部211gは、画像メモリ209から画素データを読み出して I C カード18に記録すべきサムネイル画像と圧縮画像とを生成する。記録画像生成部211gは、画像メモリ209からラスタ走査方向に走査しつつ、横方向と縦方向の両方向でそれぞれ8画素毎に画素データを読み出し、順次、I C カード18のサムネイル画像エリア AR2 に転送することで、サムネイル画像を生成しつつ I C カード18に記録する。

【0137】また、記録画像生成部211gは、画像メモリ209から全画素データを読み出し、これらの画素データに2次元 DCT 変換、ハフマン符号化等の J P E G 方式による所定の圧縮処理を施して圧縮画像の画像データを生成し、この圧縮画像データを I C カード18の本画像エリア AR3 に記録する。なお、インデックス情報は、図略のインデックス情報生成部により生成され、サムネイル画像及び本画像の記録処理の前又は後に T A G エリア AR1 に記録される。

【0138】再生画像生成部211hは、I C カード18から画像データを読み出して LCD 表示部10に再生表示すべきサムネイル画像と本画像とを生成する。I C カード18に記録された画像はモニタテレビ用の γ 係数 ($= 0.55$) で γ 補正されているので、この記録画像をそのまま LCD 表示部10に再生すると、上記 γ 係数と LCD 表示用の γ 係数 ($= 0.45$) との不整合によりコントラストの強い堅調の画質となるため、再生画像生成部211hは、サムネイル画像及び本画像の再生画像を生成する際、再生画像の γ 特性を再補正する。

【0139】すなわち、再生画像生成部211hは、I C カード18のサムネイル画像エリア AR2 からラスタ

走査方向に走査しつつ読み出された画像データに $\gamma = 0.82 (= 0.45 / 0.55)$ の γ 特性で γ 補正を施した後、この画像データに基づいて横ライン単位で表示用の画素データ（不足する画素データを補間した画素データ）を生成し、順次、画像メモリ210に転送してサムネイル画像のLCD表示部10への再生表示を行なう。

【0140】また、再生画像生成部211hは、ICカード18の本画像エリアAR3から読み出された圧縮画像の画素データを横ライン単位で伸長して表示用の画素データを生成し、この画素データに $\gamma = 0.82$ の γ 特性で γ 補正を施した後、順次、画像メモリ210に転送して本画像のLCD表示部10への再生表示を行なう。

【0141】ここで、撮影シーン及びフラッシュの発光モードに応じた露出制御（シャッタースピード制御）、フラッシュの調光制御、 γ 補正及びフィルタリング等の画像補正制御について、下記表2及び表3を用いて説明する。

発光モード		撮影シーン			
		低輝度シーン	中輝度通常シーン	中輝度逆光シーン	高輝度シーン
自動発光	Sスピード	1/30	適正值	(適正-1.5EV)	適正值
	FL調光	適正值	×	(適正-0.75EV)	×
	γ 特性	⑤/⑥	①	①/③	③
	フィルタ	弱/強弱	標準	標準	標準
発光禁止	Sスピード	1/30 (ゲイン調整有り)	適正值	適正值	適正值
	FL調光	×	×	×	×
	γ 特性	④	①	①	③
	フィルタ	強	標準	標準	標準
強制発光	Sスピード	1/30	(適正-1.0EV)	(適正-1.0EV)	適正值
	FL調光	(適正-1.0EV)	(適正-1.0EV)	(適正-1.0EV)	×
	γ 特性	⑤/⑥	①	①/③	③
	フィルタ	弱/弱弱	標準	標準	標準

(注) × ; FL発光なし γ 特性；(調光成功時) / (調光失敗時) フィルタ特性；(調光成功時) / (調光失敗時)

【0145】

【表3】

発光モード		撮影シーン		
		低輝度シーン	中輝度通常シーン	高輝度シーン
自動発光	Sスピード	1/512	適正值	適正值
	FL調光	適正值 (光量固定)	×	×
	γ 特性	⑤/⑥	④/⑥	③/⑥
	フィルタ	強強	強強	強強
発光禁止	Sスピード	1/30 (ゲイン調整有り)	適正值	適正值
	FL調光	×	×	×
	γ 特性	④/⑥	④/⑥	③/⑥
	フィルタ	標準	強強	強強
強制発光	Sスピード	1/512	1/512	適正值
	FL調光	(適正-0.5EV)	(適正-0.5EV)	×
	γ 特性	⑤/⑥	①/⑥	/
	フィルタ	強強	強強	強強

(注) × ; FL発光なし γ 特性；(自然画時) / (文字画時)

【0146】表2、表3において、「Sスピード」の欄

はシャッタースピードSSの設定値を示している。1/3

0、1/512等は、表1に示すシャッタースピードSSの値を示し、「適正值」は、LCD表示部10におけるファインダー表示において、レリーズ直接前に設定されているシャッタースピードを示している。また、(適正值-ε(Ev))の表示は、適正值のシャッタースピードで露光される露光量よりε(Ev)だけ露光量を小さくするように「適正值」のシャッタースピードを補正することを示している。この適正值に対する補正是、フィルムへの撮影における補正と同様の考え方で行なうものである。

【0147】通常撮影の場合、低輝度シーンは被写体が暗いので、フラッシュの発光の有無に関わらず、最長のシャッタースピード(1/30(秒))が設定される。一方、マクロ撮影の場合、フラッシュを発光しないときは、最長のシャッタースピード(1/30(秒))が設定されるが、フラッシュを発光するときは、内蔵フラッシュ5の発光量との関係で1/512(秒)のシャッタースピードSSが設定される。なお、通常撮影、マクロ撮影のいずれにおいてもフラッシュを発光しない場合、シャッタースピードだけでは露光不足となるときは、AGC回路のゲインを調整して露光制御が行なわれる。

【0148】「FL調光」の欄は、内蔵フラッシュ5を発光した際の調光量を示している。「適正值」は、被写体輝度から算出される好適な調光量を示し、(適正值-εEv)の表示は、その適正值よりε(Ev)だけ調光量を小さくするように適正值を補正することを示している。また、×印は、内蔵フラッシュ5の発光を行なわないことを示している。

【0149】「γ特性」の欄は、γ補正回路208において選択される図24のγ特性を示している。また、「フィルタ」の欄は、フィルタ部211fにおいて選択される図28及び図29に示すデジタルフィルタの特性を示している。

【0150】表2における「γ特性」及び「フィルタ」の欄の「X1/X2」の表示は、X1がフラッシュの調光に成功した場合の特性を示し、X2がフラッシュの調光に失敗した場合のγ特性を示している。「調光成功」とは、CCD303の積分時間(すなわち、シャッタースピード)SS内に調光回路304から発光停止信号STOPが出力された場合のことであり、「調光失敗」とは、上記積分時間SS内に調光回路304から発光停止信号STOPが出力されなかった場合のことである。

【0151】調光制御は、フラッシュの発光中にその発光量が所定の光量に達したとき、発光を強制的に停止してフラッシュの光量を調整するものであるから、正常に調光が行なわれる場合はCCD303の積分動作中に必ず調光回路304から発光停止信号STOPが出力される。従って、発光停止信号STOPの出力タイミングにより調光制御の成功/失敗を判別するようしている。

【0152】また、調光制御の成功又は失敗によりγ特

性及びフィルタ特性を変更しているのは、調光制御が失敗した場合は、撮像画像が光量不足の画像(全体的に暗い画像)となっているので、γ補正及びフィルタリング処理によりフラッシュの光量不足に基づく画質劣化を補正するためである。

【0153】例えば低輝度シーンで自動発光モード若しくは強制発光モードにより内蔵フラッシュ5を発光した場合、調光を失敗したときは、光量不足により全体的に暗い輪郭の不明瞭な画像となるので、調光が成功したときよりもコントラストが強く、暗部を引き締めるようなγ特性を選択する一方、調光が成功したときよりも輪郭強調を弱めるフィルタ特性を選択して、全体的に見やすい画質にするようしている。

【0154】また、中輝度逆光シーンで自動発光モード若しくは強制発光モードにより内蔵フラッシュ5を発光した場合、調光を失敗したときは、光量不足により主被写体が黒っぽくなるとともに、背景に対する濃度バランスのアンバランスが強くなるので、背景のハイライト部の再現性を保持しつつ背景と主被写体とのコントラストを弱めるように、γ特性とフィルタ特性とを変更して上記画質の劣化を低減するようしている。

【0155】中輝度通常シーンでは、標準的な撮影条件となるので、標準的なγ特性①が選択され、高輝度シーンでは、全体に明るい画像となるので、ハイライト部の再現性を良好にするように、γ値の小さい特性③によりγ補正が行なわれる。

【0156】一方、表3における「γ特性」の欄の「X1/X2」の表示は、X1が自然画の被写体を撮影した場合の特性を示し、X2が文字画の被写体を撮影した場合のγ特性を示している。文字画の場合は、文字や図表の輪郭を強調して見易くするため、自然画よりもコントラストを強めるγ補正を行なうようとしたものである。従って、マクロ撮影において、撮影画像が文字画の場合は、図24の特性⑥によりγ補正することによりコントラストを強調するようしている。なお、マクロモードにおいて文字画と自然画とを識別するようしているのは、文字画の被写体は、通常、近接して撮影されることが多いからである。

【0157】自然画の場合は、通常撮影の場合とほぼ同様にγ特性が選択されるが、中輝度通常シーンの自動発光モード及び発光禁止モードにおいては特性④によりγ補正される。マクロ撮影では、主被写体が大きく撮影され、通常撮影の場合に比して主被写体を構成する画素データの密度が高いので、暗黒部を引き締めて画像の鮮明化を図るものである。また、低輝度シーンの発光禁止モードにおいても特性④によりγ補正される。この場合も通常撮影の場合と同様に特性⑥によりγ補正すると、コントラストが強くなり過ぎ、却って画質が不自然となるので、特性④により標準的なコントラストが得られるようしている。

【0158】フィルタ特性は、通常撮影では、低輝度シーンを除いて標準的な特性が選択される。低輝度シーンのフラッシュ撮影で、輪郭強調を弱めるようにしているのは、 γ 補正でコントラストを強調するようにしているので、過度に堅調の画質とならないように、 γ 補正とのバランスを考慮したものである。また、マクロ撮影では、輪郭を強調するような特性が選択される。上記のようにマクロ撮影画像は、通常撮影画像に比して主被写体の解像度が高くなるので、輪郭強調を図って鮮明度の高い画質が得られるようになるためである。

【0159】上記のように、本実施の形態では、撮影シーン、フラッシュ発光の有無、フラッシュ発光量の適否等の種々の条件、より具体的には被写体の照明を行なう光線の状態に応じて γ 補正、フィルタリング処理等の撮像画像の画像処理の特性を極め細かく設定するようにしているので、好適な静止画の撮像画像を得ることができる。

【0160】次に、デジタルカメラ1の撮影モードにおける撮影制御について、図32～図34に示すフローチャートに従って説明する。

【0161】撮影制御は、主としてビューファインダ処理(図32、#2～#38)、撮影シーン判定処理(図33、#40～#54)、マクロ撮影における画像判定処理(図33、#56～#66)、露出制御(図34、#68～#88)及び画像処理(図34、#90～#100)から構成されている。

【0162】ビューファインダ処理は、LCD表示部10に被写体像を表示して撮影内容を視認できるようにする処理である。ビューファインダ処理においては、好適なシャッタースピードの調整も行なわれる。

【0163】撮影モードにおいては、まず、シャッタースピードSSが1/128(秒)に設定され(#2)、 $\gamma=0.45$ の γ 特性(図24の特性②)が設定された後(#4)、CCD303による露光が開始される(#6)。そして、所定の露光時間(SS=1/128(秒))が経過すると(#8でYES)、CCD303で撮像された画像信号が読み出され(#10)、信号処理回路313、A/D変換器205、WB回路D5及び γ 補正回路208により所定の画像処理が行なわれた後(#12)、画像メモリ209に記憶される(#14)。画像メモリ209に記憶された画像データは、直ちに、画像メモリ210に読み出され、LCD表示部10にモニタ表示される(#16)。

【0164】続いて、図25に示すように、撮像画像を9個のブロックB(1)～B(9)に分割し、各ブロックB(i)(i=1, 2, … 9)毎にそのブロックを代表する輝度データBV(i)が算出される。輝度データBV(i)は、画像メモリ209からブロックB(i)に含まれるG(緑)の色成分の画素データG_c(k, h)を読み出し、それらの画素データG_c(k, h)の平均値を演算

することにより算出される。

【0165】続いて、各輝度データBV(i)を所定のハイレベルの閾値BV_H(例えば、256階調で200)と比較して閾値BV_H以上の輝度データBV(i)を有するブロック数n_Hが算出される(#20)。また、各輝度データBV(i)を所定のローレベルの閾値BV_L(例えば、256階調で50)と比較して閾値BV_L以下の輝度データBV(i)を有するブロック数n_Lが算出される(#22)。

【0166】続いて、ブロック数n_H, n_Lがそれぞれ所定のブロック数n_R(例えば6個)以上であるか否かが判別され(#24, #28)、n_H≥n_Rであれば(#24でYES)、撮像画像が全体的に明るすぎる(露光オーバーである)ので、シャッタースピードSSが1段小さい値に変更され(#26)、n_L≥n_Rであれば(#28でYES)、撮像画像が全体的に暗すぎる(露光アンダーである)ので、シャッタースピードSSが1段大きい値に変更される(#30)。例えば、最初のコマの撮像時は、シャッタースピードSSが1/128(秒)に設定されているので、n_H≥n_Rであれば、シャッタースピードSSは1/144(秒)に変更され、n_L≥n_Rであれば、シャッタースピードSSは1/114(秒)に変更される(表1参照)。

【0167】続いて、フラグFRELが「0」にリセットされた後(#32)、#36に移行し、フラグFRELのセット状態が判別される。

【0168】一方、n_H<n_R及びn_L<n_Rであれば(#24, #28でNO)、シャッタースピードSSは適正であるので、フラグFRELが「1」にセットされた後(#34)、#36に移行し、フラグFRELのセット状態が判別される。

【0169】そして、フラグFRELが「0」にリセットされていれば(#36でNO)、シャッタースピードSSを適正に設定すべく、#6に戻り、フラグFRELが「1」にセットされていれば(#36でYES)、シャッタースピードSSは適正に設定されているので、更に、シャッタボタン9が押され、レリーズスイッチS_{REL}がオンになっているか否かが判別され(#38)、レリーズスイッチS_{REL}がオフ状態であれば(#38でNO)、#2に戻り、レリーズ待機状態となる(#2～#28, #34～#38のループ)。

【0170】上記フラグFRELはレリーズの可否を示すフラグで、「1」にセットされると、「レリーズ可」を示し、「0」にリセットされると、「レリーズ不可」を示す。シャッタースピードSSの変更処理を行なう場合は、シャッタースピードが適正でない(すなわち、露出制御値が不適切である)ので、レリーズを禁止するため、フラグFRELは「0」にリセットされる。

【0171】CCD303では、1/30(秒)毎にフレーム画像が取り込まれるので、各フレーム画像毎に上

記#2～#38の処理を行ない、シャッタースピードSSを初期値から1段ずつ増大若しくは減少してビューファインダ処理と同時にシャッタースピードSSの調整を行なうようにしている。なお、#2～#38のループ処理によりシャッタースピードSSが更新的に大きい値に変更され、 $1/30$ （秒）を越えるときは、シャッタースピードSSは $1/30$ （秒）に固定し、信号処理回路313内のAGC回路のゲインを調整して露出制御値を調整するようしている（#30）。

【0172】レリーズ待機状態において、シャッタボタン9が押され、レリーズスイッチS_{REL}がオンになると（#38でYES）、露光に先立ち、まず、撮影シーン判定処理が行なわれる（#40～#54）。撮影シーン判定処理は、撮影シーンが「低輝度」、「中輝度通常」、「中輝度逆光」及び「高輝度」のいずれのシーンであるかを判定するものである。

【0173】低輝度、中輝度及び高輝度のシーン判定は、シャッタースピードSSの設定値により行なわれる。すなわち、シャッタースピードSSが、 $SS < 1/1000$ （秒）、 $1/1000$ （秒） $\leq SS < 1/30$ （秒）及び $SS = 1/30$ （秒）のいずれの範囲に設定されているかが判別され（#40、#42）、 $SS < 1/1000$ （秒）であれば（#40でYES）、「高輝度シーン」と判別され（#44）、 $SS = 1/30$ （秒）であれば、（#40でNO、#42でYES）、「低輝度シーン」と判別され（#46）、それぞれその判定結果がメモリ211dに記憶される。

【0174】また、 $1/1000$ （秒） $\leq SS < 1/30$ （秒）であれば（#40、#42でNO）、中輝度シーンと判定され、更に、通常の順光シーンであるか、逆光シーンであるかの判定が行なわれる（#48～#54）。すなわち、周辺のブロックB(1)～B(4)、B(6)～BV(9)の輝度データBV(1)～BV(4)、BV(6)～BV(9)の平均値を演算することにより周辺部の輝度データBV2が算出され（#48）、この輝度データBV1と中央部の輝度データBV1として設定したブロックB(5)の輝度データBV(5)との輝度差 $\Delta BV (= BV2 - BV1)$ が所定の閾値BV0（例えば、256階調において階調差50）を越えているか否かが判別される（#50）。

【0175】そして、輝度差 $\Delta BV > BV0$ であれば

$$E_A = \{(G_a(1)-G_{AVR})^4 + (G_a(2)-G_{AVR})^4 + (G_a(3)-G_{AVR})^4 + \dots + (G_a(N-1)-G_{AVR})^4 + (G_a(N)-G_{AVR})^4\} / N \quad \dots (4)$$

【0180】統いて、レベルBの画素データの割合 P_B が50%以下であるか否かが判別され（#110）、 $P_B > 50\%$ であれば（#110でNO）、撮像画像の輝度分布のピークは略中央部に位置し、分布の形状は図26の②に示す「1山分布」と推定されるので、フラグFBNPを「0」にリセットして（#118）、リターンする。なお、フラグFBNPは輝度分布の形状を示すフ

（#50でYES）、周辺部が中央部より明るいので、「中輝度逆光シーン」と判定され、輝度差 $\Delta BV \leq BV0$ であれば（#50でNO）、中央部が周辺部より明るいか若しくは両者の輝度差が少ないので、「中輝度通常シーン」と判定され、これらの判定結果がメモリ211dに記憶される（#52、#54）。

【0176】撮影シーン判定処理が終了すると、スイッチS_{MACRO}がオン状態になっているか否かによりズームレバー304がマクロ位置PMに設定されているか否かが判別され（#56）、マクロ位置PMに設定されなければ（#56でNO）、#66に移行し、マクロ位置に設定されなければ（#56でYES）、マクロ撮影における画像判定処理が行なわれた後（#58～#64）、#66に移行する。

【0177】画像判定処理は、被写体が自然画と文字画のいずれであるかを判別する処理である。画像判定処理では、図35に示す「ヒストグラム解析」のサブルーチンにより、画像メモリ209に記憶されている撮影画像の輝度分布が解析される。すなわち、画像メモリ209からG（緑）の色成分の全画素データ $G_G(i, j)$ （ $i = 1, 2, \dots, n, j = 1, 2, \dots, m$ ）が読み出され、これらの画素データ $G_G(i, j)$ のヒストグラムが作成される（#102）。ヒストグラムは、例えば画素データ G_G の階級を $1 \leq G_G \leq 99$ 、 $100 \leq G_G \leq 149$ 及び $150 \leq G_G \leq 255$ の3種類に分類し、各階級の度数を算出することにより作成される。

【0178】統いて、 $1 \leq G_G \leq 99$ 、 $100 \leq G_G \leq 149$ 及び $150 \leq G_G \leq 255$ の各階級をそれぞれ「レベルA」、「レベルB」、「レベルC」とすると、レベルBの画素数 n_B の全画素数 n_T に対する割合 $P_B (= 100 \cdot n_B / n_T) (%)$ が算出される（#104）。更に、レベルA及びレベルCの画素データについてそれぞれ尤度 E_A 、 E_C が算出される（#106、#108）。なお、尤度 E_A は、レベルAに属する画素データを $G_G(r)$ （ $r = 1, 2, \dots, N$ ）、 $G_G(r)$ の平均値を G_{GAVE} とする、下記数（4）式で算出される。また、尤度 E_C も尤度 E_A と同様の演算方法で算出される。

【0179】

【数3】

ラグで、輝度分布の形状が上記「1山分布」の場合は「0」にリセットされ、図26の①に示す「2山分布」の場合は「1」にセットされる。

【0181】 $P_B \leq 50\%$ であれば（#110でYES）、更に、尤度 E_A 、 E_C がそれぞれ所定の評価値 E_1 、 E_2 以下であるか否かが判別され（#112、#114）、 $E_A \leq E_1$ 、かつ、 $E_C \leq E_2$ であれば（#11

2及び#114でYES)、輝度分布の低輝度側と高輝度側とにそれぞれ山の形を有し、分布の形状は「2山分布」と推定されるので、フラグFBNPを「1」にセットして(#116)、リターンする。

【0182】一方、尤度 E_A 、 E_c のいずれかが $E_A > E_1$ 又は $E_c > E_2$ であれば(#112でNO又は#114でNO)、輝度分布に山の形は存在し得るが、その山は低輝度側若しくは高輝度側のいずれかに偏っており、分布の形状は「2山分布」ではないと推定されるので、フラグFBNPを「0」にリセットして(#118)、リターンする。

【0183】続いて、輝度分布の解析が終了すると、図33に戻り、フラグFBNPのセット内容から被写体の輝度分布が「2山分布」であるか否かが判別され(#60)、輝度分布が「2山分布」であれば(#60でYES)、被写体は文字画と判別され(#62)、輝度分布が「1山分布」であれば(#60でNO)、被写体は自然画と判別され(#64)、これらの判別結果はメモリ211dに記憶される。

【0184】続いて、判別された撮影シーンと設定されているフラッシュ発光モードとに基づき表1及び表2に示す所定のシャッタースピードSSが設定された後(#66)、露出制御が行なわれる(#68～#90)。この露出制御においては、フラッシュ発光時には調光制御が行なわれ、この調光結果に応じて γ 特性が設定される。

【0185】露光が開始されると(#68)、内蔵フラッシュ5の発光が行なわれるか否かが判別される(#70)。この判別は、FLモード設定スイッチ11によるフラッシュ発光モードの設定状態、自動発光モードにおいては、被写体輝度に基づくフラッシュ発光の判定(説明省略)の結果に基づいて行なわれる。

【0186】内蔵フラッシュ5を発光する場合は(#70でYES)、更に、マクロ撮影における低輝度シーンの自動発光モードによるものであるか否かの判別が行なわれ(#72)、マクロ撮影における低輝度シーンの自動発光モードによるものでなければ(#72でNO)、表1及び表2に示すように、撮影シーン及びフラッシュ発光モードに応じた所定の調光量が設定されて内蔵フラッシュ5の発光及び調光制御が行なわれ(#74, #76)、マクロ撮影における低輝度シーンの自動発光モードによるものであれば(#72でYES)、例えばガイドナンバーGN_{o.}=2の固定の発光量で内蔵フラッシュ5が発光される(#78)。マクロ撮影における低輝度シーンの自動発光モードによる内蔵フラッシュ5の発光で、発光量を固定にしているのは、被写体距離が短く、かつ、低輝度であるため、固定の発光量で被写体を適切に照明することができるからである。

【0187】一方、内蔵フラッシュ5を発光しない場合は(#70でNO)、上記#72～#78の処理を行なうことなく、露光が継続される。

【0188】そして、所定のシャッタースピードSSが経過し、露光が終了すると(#80でYES)、調光制御が行なわれたか否かが判別され(#82)、調光制御が行なわれた場合は(#82でYES)、更に、露光中に調光回路304から発光停止信号STOPが出力されたか否かにより調光制御が成功したか否かの判別が行なわれ(#84)、その判別結果が記憶される(#86, #88)。この判別結果の記憶は、例えばフラグにより行なわれ、調光制御が成功したときは、フラグが「1」にセットされ、調光制御が失敗したときは、フラグが「0」にリセットされる。

【0189】露出制御が終了すると、続いて、撮像画像の処理が行なわれる。すなわち、撮影シーン、フラッシュ発光モード、調光制御の成功/失敗及び自然画/文字画の判別結果に基づき、表1及び表2に示す所定の γ 特性及びフィルタ特性が設定される(#90)。続いて、CCD303で撮像された画像のデータが読み出され(#92)、信号処理回路313、A/D変換器205、WB回路D5及び γ 補正回路208により所定の画像処理が行なわれた後(#94)、画像メモリ209に記憶される(#96)。

【0190】画像メモリ209に記憶された画像データは、直ちに、画像メモリ210に転送され、LCD表示部10にモニタ表示される(#98)。また、画像メモリ209に記憶された画像データから記録用の所定の画像データが生成され、この画像データをICカード18に転送して撮像画像の記録が行なわれる(#100)。すなわち、画像メモリ209に記憶された画像データからサムネイル画像の画像データ(画素データ数を1/64に間引いた画像データ)が生成され、この画像データがICカード18に記録される。また、画像メモリ209に記憶された全画像データに対して所定のデジタルフィルタによりフィルタリング処理を施した後、設定された圧縮率KでJPEG方式により圧縮して記録用の本画像の画像データが生成され、この画像データがICカード18に記録される。

【0191】そして、画像データのICカード18への記録により撮影動作が終了し、次の撮影を行なうべく、#2に戻る。

【0192】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、デジタルカメラにおいて、被写体を照明する光線の状態(撮影シーンやフラッシュ撮影での光量状態)を判別し、この判別結果に応じた画像処理の特性により撮像手段で取り込まれた画像信号の信号処理を行なうようにしたので、撮像画像の画質を被写体の撮影シーンやフラッシュ撮影における撮影条件等に応じた好適な画質にすることができる。

【0193】また、上記デジタルカメラにおいて、閃光を発光する閃光発光手段を備え、閃光発光撮影において

は、被写体が閃光発光手段により所定の発光量で照明されたか否かを判別するようにしたので、フラッシュ撮影においても撮像画像の画質をフラッシュ撮影シーンに応じた好適な画質にすることができる。

【0194】更に、上記デジタルカメラにおいて、撮像手段の露光期間中に閃光発光手段の発光量が所定の発光量に達したか否かによって被写体が所定の光量で照明されたか否かを判別し、被写体が適正に照明されなかつた場合は、その撮影条件に応じた画像処理の特性に従って画像信号の信号処理を行なうようにしたので、フラッシュ撮影において、被写体が適正に照明されなかつた場合もかかる不適正照明に基づく撮像画像の画質劣化を軽減することができる。

【0195】また、光線状態に対応して設けられた画像処理の特性に γ 特性を含め、この γ 特性は、撮像手段の露光動作の終了時から画像信号の画像信号処理手段への読み出しまでの間に行なうようにしたので、フラッシュ撮影のように、本撮影を行なわなければ、撮影条件が確定しない場合にも、撮影条件に応じた好適な γ 特性を確実に設定することができ、フラッシュ発光量が不適切であっても画質劣化を確実に軽減することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るデジタルカメラの正面図である。
 【図2】本発明に係るデジタルカメラの背面図である。
 【図3】本発明に係るデジタルカメラの上面図である。
 【図4】本発明に係るデジタルカメラの右側面図である。

【図5】本発明に係るデジタルカメラの底面図である。
 【図6】撮像部の内部光像を示す図である。
 【図7】電源電池及びICカードの蓋を開放した状態を示す図である。

【図8】電源電池及びICカードの各装填室の配置の第1の例を示す図である。

【図9】カメラ本体の斜視図である。
 【図10】撮像部と接続板との接続機構を説明するための斜視図である。
 【図11】ロック解除レバーの構造を示す要部断面図である。

【図12】接続板ユニットの構造を示す分解斜視図である。

【図13】摺動リングの平面図である。

【図14】接続板が回転基準位置にあることを検出してメイン電源をオフにするスイッチの検出状態を示す要部断面図である。

【図15】接続板が正面撮像位置にあることを検出するスイッチの検出状態を示す要部断面図である。

【図16】カメラ本体に対する撮像部の回転軸の位置を示す右側面図である。

【図17】カメラ本体に対する撮像部の回転軸の位置を示す正面図である。

【図18】撮像部とカメラ本体とを接続する接続ケーブルの外観図である。

【図19】接続ケーブルの撮像部内の回路構成を示す図である。

【図20】画像信号の波形を示す図で、(a)は接続ケーブルの入力端の画像信号の波形図、(b)はバッファ回路を有する接続ケーブルの出力端の画像信号の波形図、(c)はバッファ回路を有しない接続ケーブルの出力端の画像信号の波形図である。

【図21】本発明に係るデジタルカメラのブロック図である。

【図22】ケーブル接続時とケーブル非接続時におけるA/D変換器に入力される画像信号とA/D変換用クロックの波形図である。

【図23】レベル変換テーブルの特性を示す図である。

【図24】 γ 補正テーブルの γ 特性を示す図である。

【図25】画像メモリの各画素データの記憶位置を示す図である。

【図26】輝度データのヒストグラムにおける文字画と自然画との相違を示す図である。

【図27】ICカードの記憶領域の構成を示す図である。

【図28】圧縮率K=1/8におけるフィルタリング処理のフィルタ演算式の一例を示す図で、(a)は標準的な輪郭強調補正の場合、(b)は標準に対して輪郭強調を1段階弱めるの場合、(c)は標準に対して輪郭強調を2段階弱める場合、(d)は標準に対して輪郭強調を1段階強める場合、(e)は標準に対して輪郭強調を2段階強める場合、のフィルタ演算式の図である。

【図29】圧縮率K=1/20におけるフィルタリング処理のフィルタ演算式の一例を示す図で、(a)は標準的な輪郭強調補正の場合、(b)は標準に対して輪郭強調を1段階弱める場合、(c)は標準に対して輪郭強調を2段階弱める場合、(d)は標準に対して輪郭強調を1段階強める場合、(e)は標準に対して輪郭強調を2段階強める場合、のフィルタ演算式の図である。

【図30】フィルタリング処理の演算方法を表す図である。

【図31】撮像部が接続ケーブルを介してカメラ本体部に接続されている場合のフィルタ演算式の一例を示す図で、(a)は圧縮率=1/8の場合の図、(b)は圧縮率=1/20の場合の図である。

【図32】撮影モードにおける撮影制御のフローチャートである。

【図33】撮影モードにおける撮影制御のフローチャートである。

【図34】撮影モードにおける撮影制御のフローチャートである。

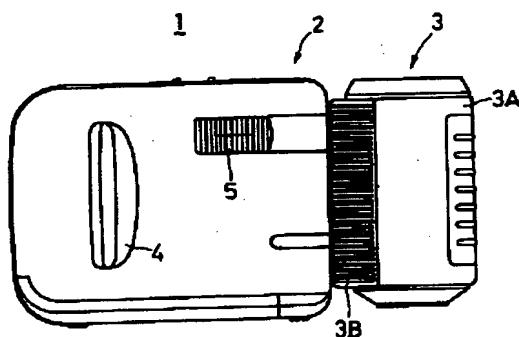
【図35】ヒストグラム解析のサブルーチンのフローチャートである。

【符号の説明】

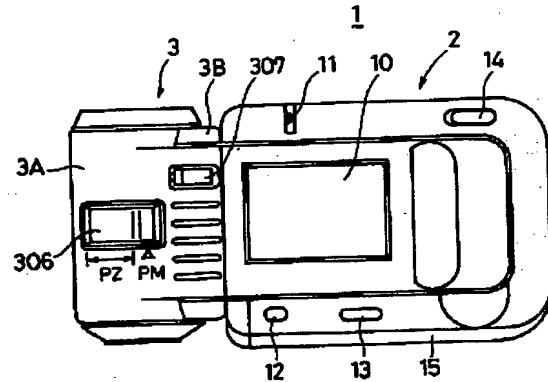
- 1 デジタルカメラ
 2 カメラ本体部
 201 基準クロック発生回路
 202 T・Gクロック発生回路
 203 A/Dクロック発生回路
 204 遅延回路
 205 A/D変換器
 206 黒レベル補正回路
 207 WB回路
 208 γ補正回路(画像信号処理手段)
 209, 210 画像メモリ
 211 制御部(光線状態判別手段、特性設定手段、画像信号処理手段、特性記憶手段)
 3 撮像部
 301 マクロズームレンズ
 302 撮像回路
 303 CCDエリアセンサ(撮像手段)
 313 信号処理回路
 314 タイミングジェネレータ
 4 グリップ部
 5 内蔵フラッシュ
 6 UPスイッチ

- 7 DOWNスイッチ
 8 消去スイッチ
 9 シャッターボタン
 10 LCD表示部
 11 FLモード設定スイッチ
 12 圧縮率設定スイッチ
 13 接続端子
 14 撮影/再生モード設定スイッチ
 15 蓋
 16 電池装填室
 17 カード装填室
 18 ICカード
 23 接続板
 29, 30 スイッチ
 32 接続ケーブル
 321 ケーブル
 322 接続部
 323 接続部
 33 バッファアンプ
 34 増幅回路
 $S_{MACRO}, S_{MAIN}, S_{CPOS}$ スイッチ
 $S_{REL}, S_{P/R}, S_{UP}, S_{DOWN}, S_{FL}, S_{DEL}, S_{COMP}$
 スイッチ

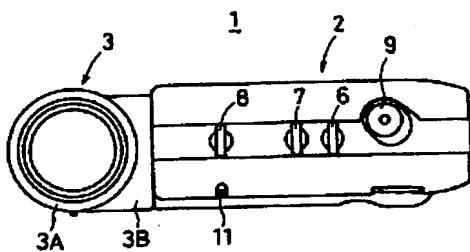
【図1】



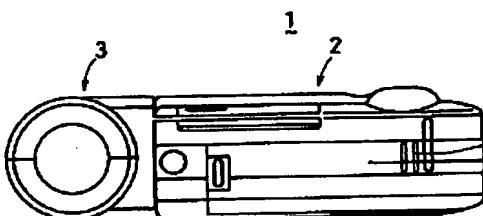
【図2】



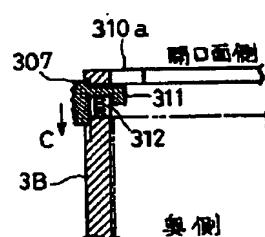
【図3】



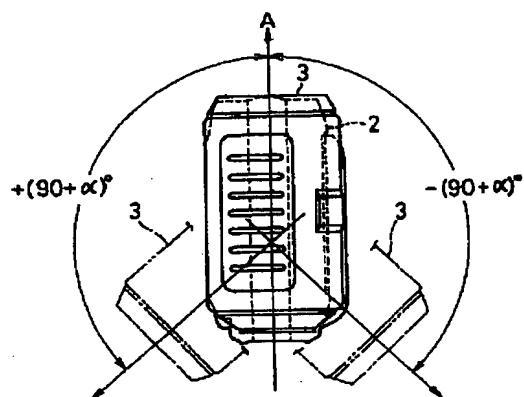
【図5】



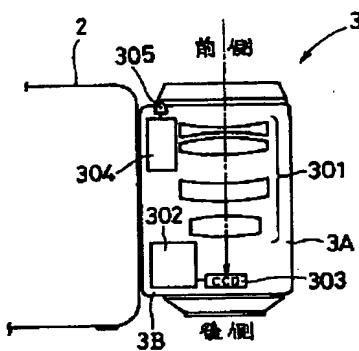
【図11】



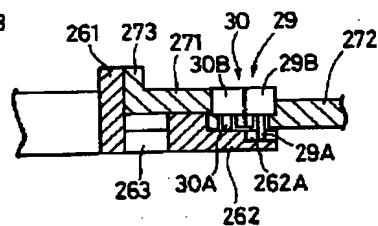
【図4】



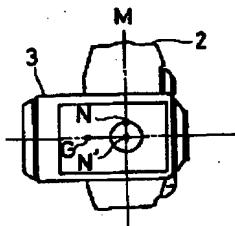
【図6】



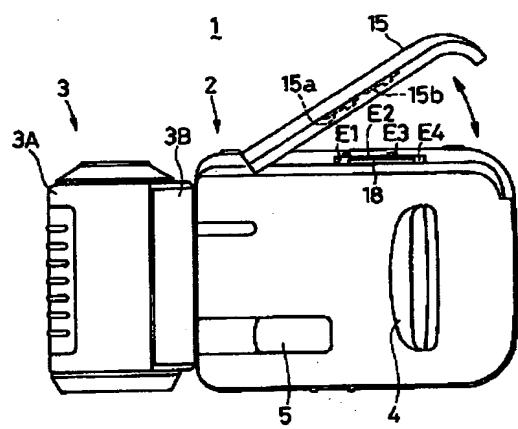
【図14】



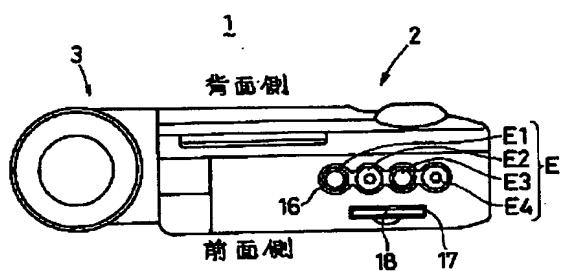
【図16】



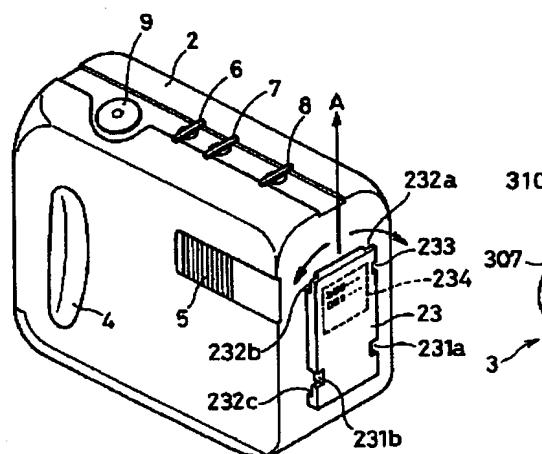
【図7】



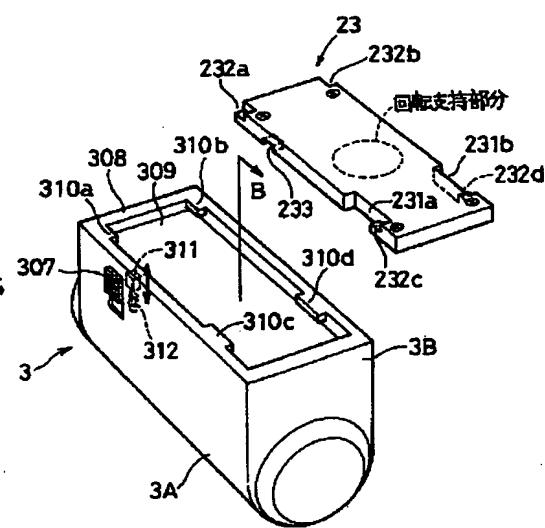
【図8】



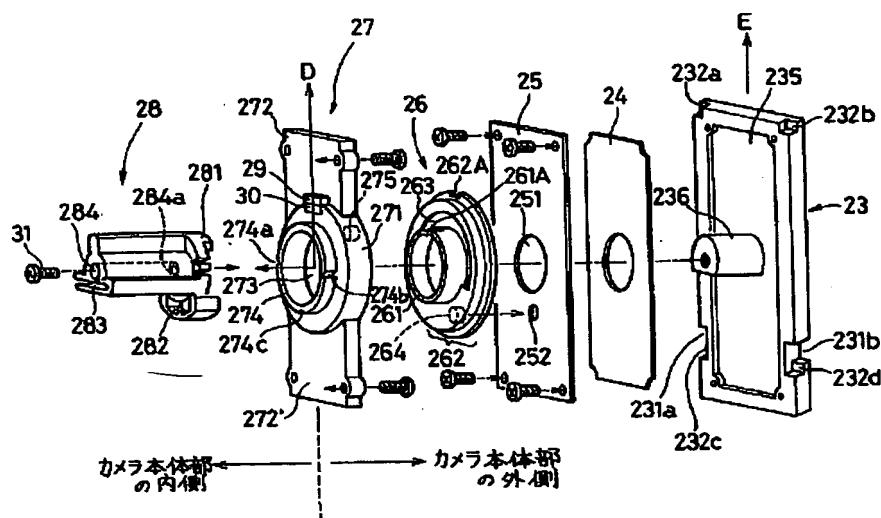
【図9】



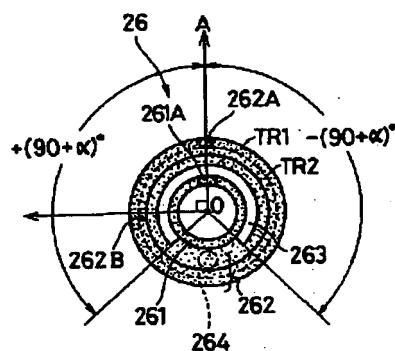
【図10】



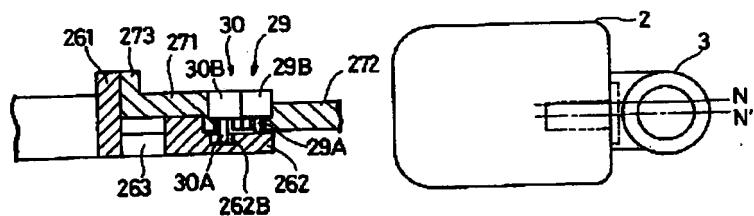
【図12】



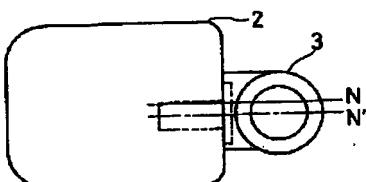
【図13】



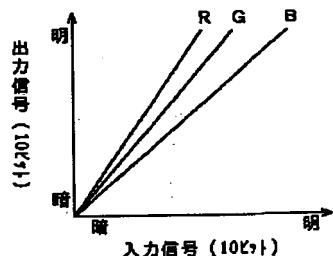
【図15】



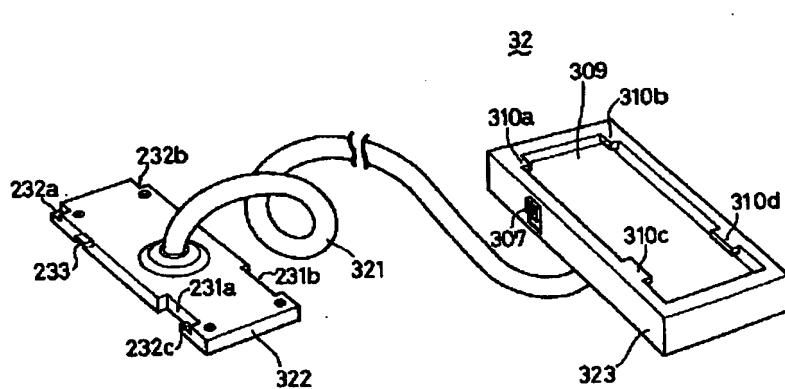
【図17】



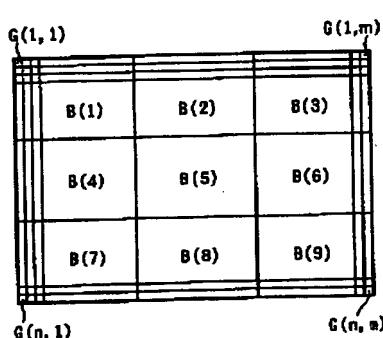
【図23】



【図18】



【図25】

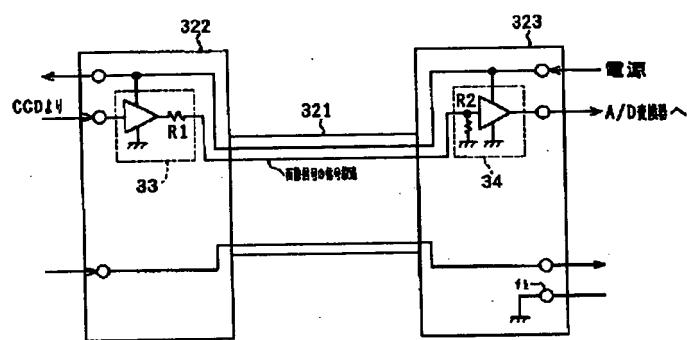


【図30】

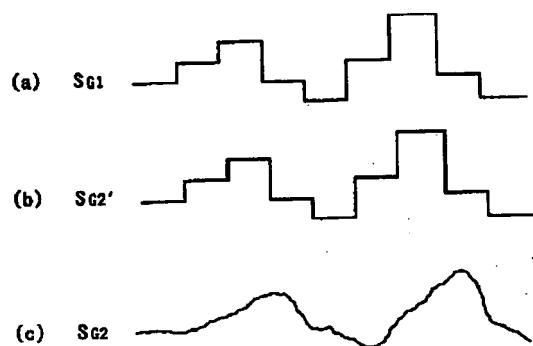
	J-2	J-1	J	J+1	J+2	
I+2		A15	A10	A16		
I+1	A14	A9	A2	A3	A17	
I	A13	A8	A1	A4	A11	
I-1	A21	A7	A6	A5	A18	
I-2	A20	A12	A19			

$\times (1/B)$

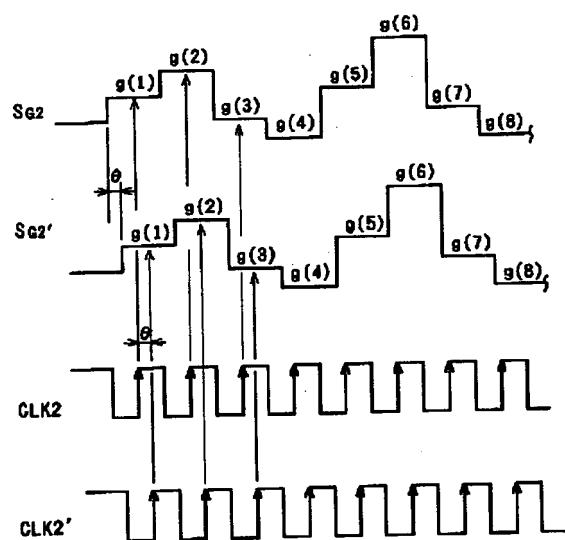
【図19】



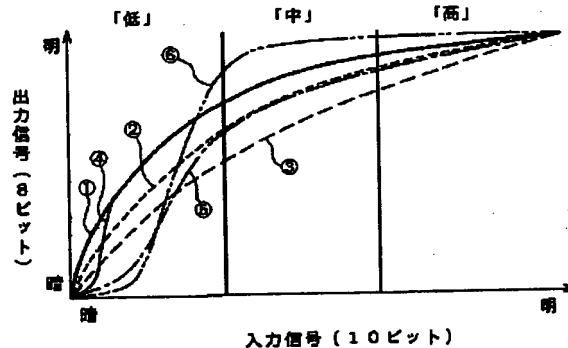
【図20】



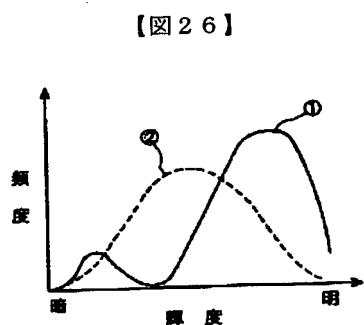
【図22】



【図24】



【図31】



【図27】



(a)
ケーブル接続で圧縮率K=1/8の場合
補却補正 標準

	-1		
	-1	-2	-1
-1	-3	21	-3
-1	-2	-1	
	-1		

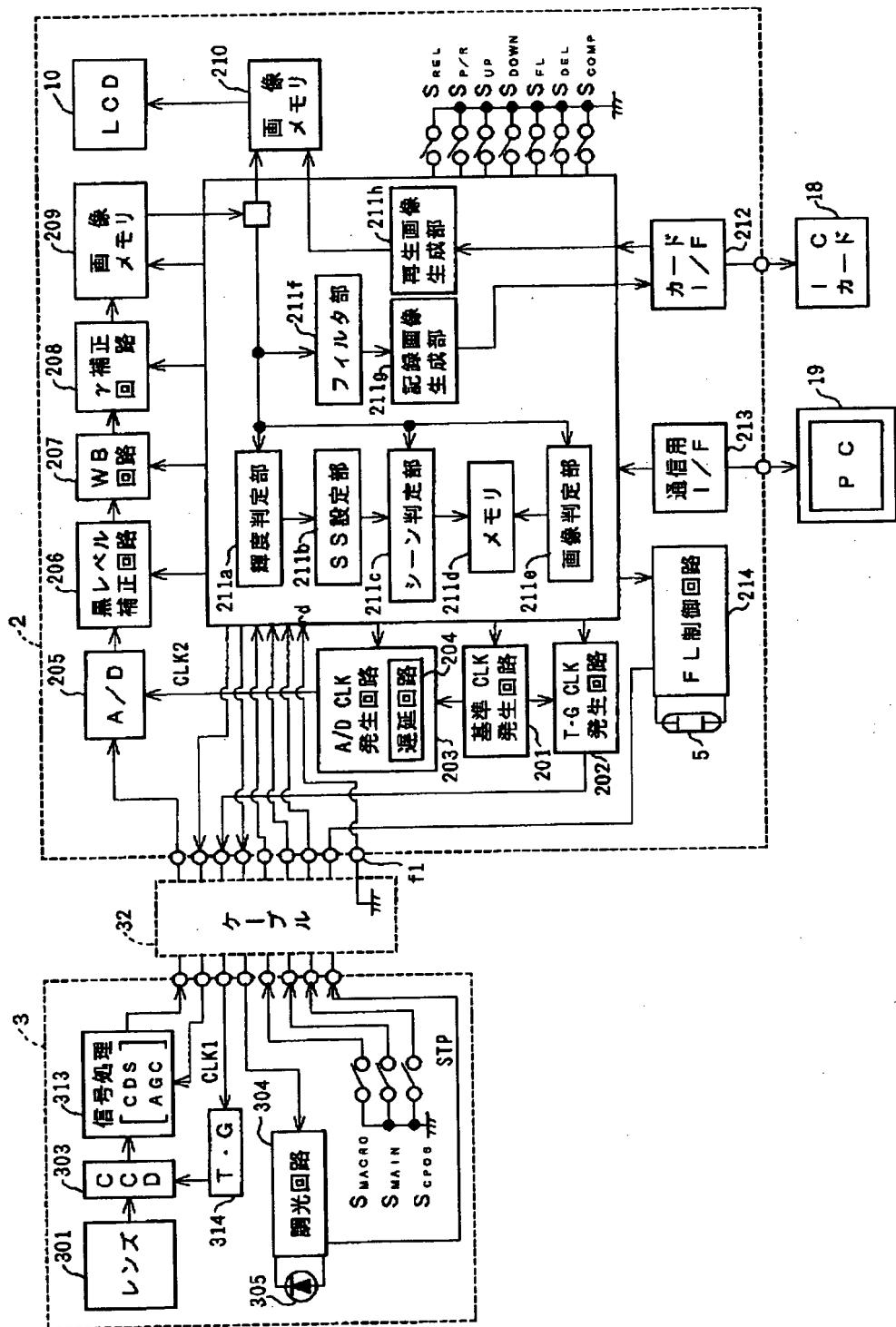
$\times (1/8)$

(b)
ケーブル接続で圧縮率K=1/20の場合
補却補正 標準

	-1	-1	-1	
-1	-1	-2	-1	-1
-1	-3	30	-3	-1
-1	-1	-2	-1	-1
	-1	-1	-1	

$\times (1/20)$

【図21】



【図28】

(a)	輪郭補正 簡单
-1	
-1 -2 -1	
-1 -2 2 1 -2 -1	
-1 -2 -1	
-1	

 $\times (1/5)$

(b)	輪郭補正 簡单
-1	
-1 -2 -1	
-1 -2 2 2 -2 -1	
-1 -2 -1	
-1	

 $\times (1/8)$

(c)	輪郭補正 簡单
-1	
-1 -2 -1	
-1 -2 2 3 -2 -1	
-1 -2 -1	
-1	

 $\times (1/7)$

(d)	輪郭補正 簡单
-1	
-1 -2 -1	
-1 -2 2 0 -2 -1	
-1 -2 -1	
-1	

 $\times (1/4)$

(e)	輪郭補正 簡单
-1	
-1 -2 -1	
-1 -2 1 0 -2 -1	
-1 -2 -1	
-1	

 $\times (1/3)$

【図29】

(a)	輪郭補正 簡单
-1	
-1 -1 -2 -1 -1	
-1 -2 3 0 -2 -1	
-1 -1 -2 -1 -1	
-1 -1 -1	

 $\times (1/6)$

(b)	輪郭補正 簡单
-1	
-1 -1 -2 -1 -1	
-1 -2 3 1 -2 -1	
-1 -1 -2 -1 -1	
-1 -1 -1	

 $\times (1/7)$

(c)	輪郭補正 簡单
-1	
-1 -1 -2 -1 -1	
-1 -2 3 2 -2 -1	
-1 -1 -2 -1 -1	
-1 -1 -1	

 $\times (1/8)$

(d)	輪郭補正 簡单
-1	
-1 -1 -2 -1 -1	
-1 -2 3 2 -2 -1	
-1 -1 -2 -1 -1	
-1 -1 -1	

 $\times (1/5)$

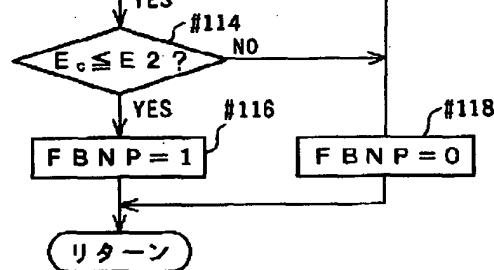
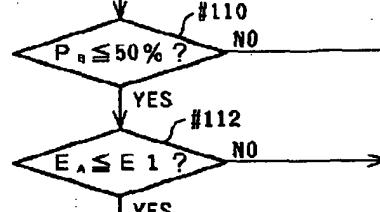
(e)	輪郭補正 簡单
-1	
-1 -1 -2 -1 -1	
-1 -2 1 9 -2 -1	
-1 -1 -2 -1 -1	
-1 -1 -1	

 $\times (1/4)$

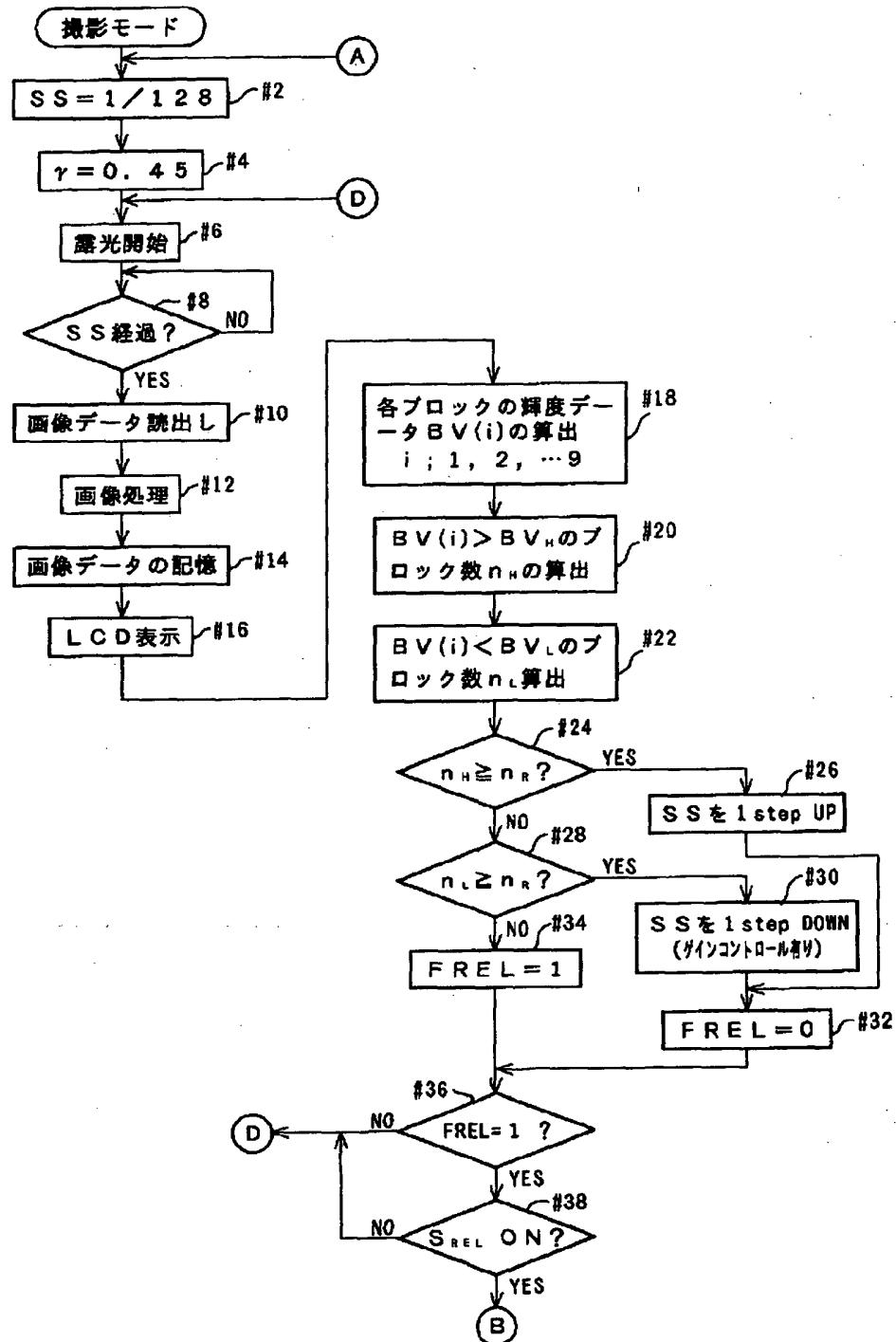
【図35】

ヒストグラム解析

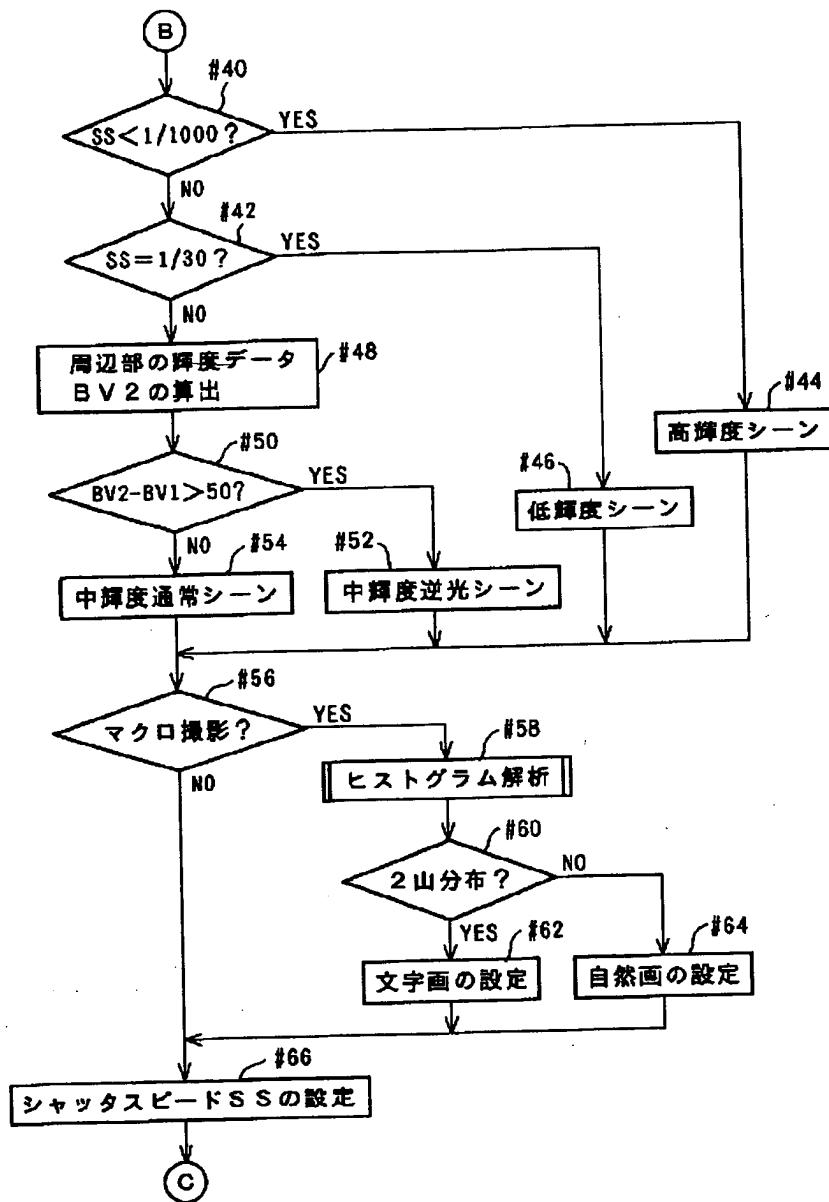
全画素データの分布作成

レベルA : 1 ~ 99
レベルB : 100 ~ 149
レベルC : 150 ~ 255レベルBの画素データの割合 P_B の算出レベルAの尤度 E_A の算出レベルCの尤度 E_C の算出

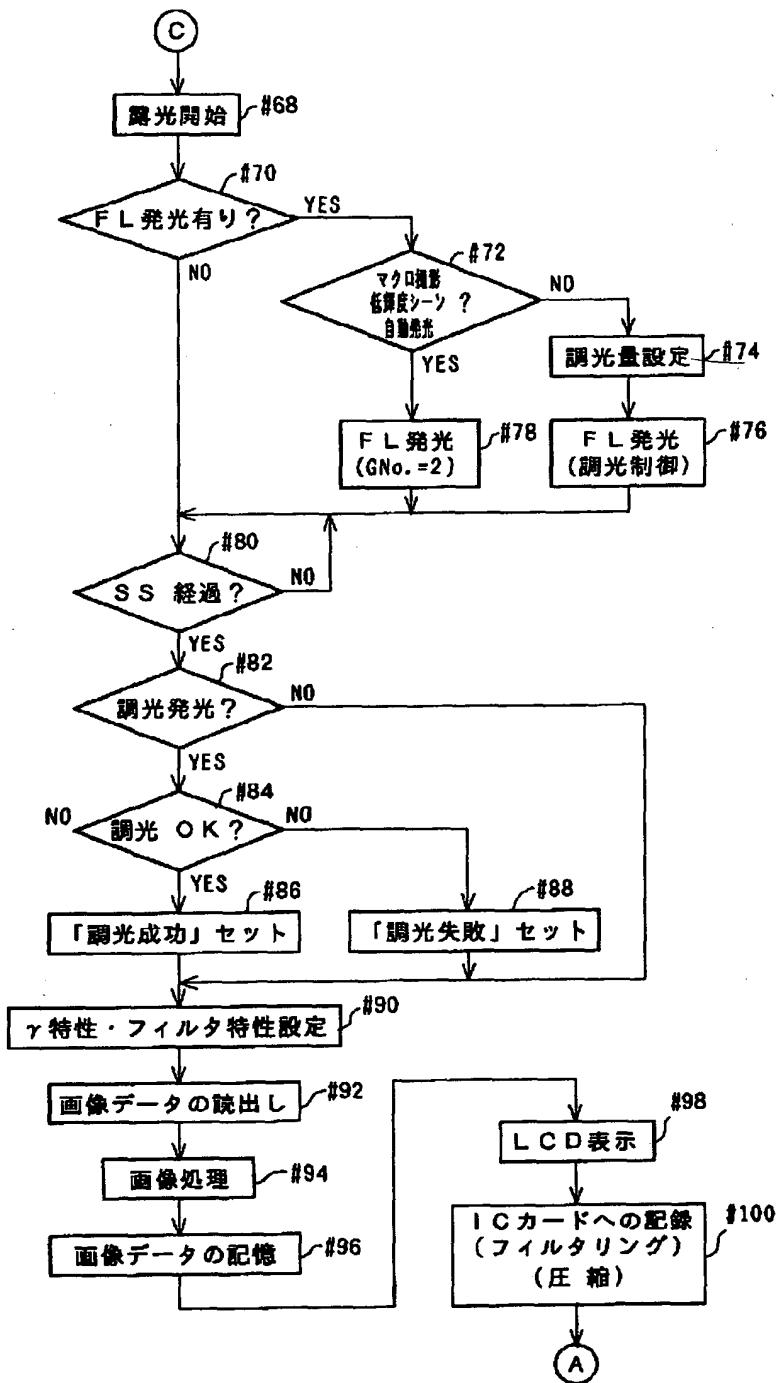
【図32】



【図33】



【図34】



【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成11年(1999)7月30日

【公開番号】特開平10-79887

【公開日】平成10年(1998)3月24日

【年通号数】公開特許公報10-799

【出願番号】特願平8-233489

【国際特許分類第6版】

H04N 5/243

G03B 15/03

19/02

H04N 1/407

【F I】

H04N 5/243

G03B 15/03 X

19/02

H04N 1/40 101 E

【手続補正書】

【提出日】平成10年6月26日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】被写体光像を画像信号に光電変換して取り込む撮像手段と、被写体を照明する光線の状態に基づいて予め設定された複数の撮影条件に対応して複数の γ 特性、及び／又は、フィルタリング処理の特性が記憶された特性記憶手段と、上記被写体を照明する光線の状態を判別する光線状態判別手段と、上記光線状態判別手段の判別結果に基づき γ 特性、及び／又は、フィルタリング処理の特性を設定する特性設定手段と、上記撮像手段で取り込まれた画像信号を設定された γ 特性、及び／又は、フィルタリング処理の特性に従って処理する画像信号処理手段とを備えたことを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項2】請求項1記載のデジタルカメラにおいて、閃光を発光する閃光発光手段を備え、上記光線状態判別手段は、閃光発光撮影においては、被写体が上記閃光発光手段により所定の発光量で照明されたか否かを判別することを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項3】請求項2記載のデジタルカメラにおいて、上記光線状態判別手段は、上記撮像手段の露光期間中に上記閃光発光手段の発光量が所定の発光量に達したか否かによって被写体が所定の光量で照明されたか否かを判別することを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項4】請求項1～3のいずれかに記載のデジタルカメラにおいて、上記特性設定手段による γ 特性の設定は、上記撮像手段の露光動作の終了時から画像信号の上記画像信号処理手段への読出しまでの間に行なわれるものであることを特徴とするデジタルカメラ。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正内容】

【0007】

【課題を解決するための手段】請求項1記載の発明は、被写体光像を画像信号に光電変換して取り込む撮像手段と、被写体を照明する光線の状態に基づいて予め設定された複数の撮影条件に対応して複数の γ 特性、及び／又は、フィルタリング処理の特性が記憶された特性記憶手段と、上記被写体を照明する光線の状態を判別する光線状態判別手段と、上記光線状態判別手段の判別結果に基づき γ 特性、及び／又は、フィルタリング処理の特性を設定する特性設定手段と、上記撮像手段で取り込まれた画像信号を設定された γ 特性、及び／又は、フィルタリング処理の特性に従って処理する画像信号処理手段とを備えたものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正内容】

【0009】そして、本撮影においては、撮像手段で取り込まれた画像信号が光線状態判別結果に基づいて設定

された γ 特性及び／又はフィルタリング処理の特性に従って処理される。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正内容】

【0014】更に、請求項4記載の発明は、上記デジタルカメラにおいて、上記特性設定手段による γ 特性の設定は、上記撮像手段の露光動作の終了時から画像信号の上記画像信号処理手段への読出しまでの間に行なわれるものである。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0192

【補正方法】変更

【補正内容】

【0192】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、

デジタルカメラにおいて、被写体を照明する光線の状態（撮影シーンやフラッシュ撮影での光量状態）を判別し、この判別結果に応じた γ 特性及び／又はフィルタリング処理の特性により撮像手段で取り込まれた画像信号の信号処理を行なうようにしたので、撮像画像の画質を被写体の撮影シーンやフラッシュ撮影における撮影条件等に応じた好適な画質にすることができます。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0195

【補正方法】変更

【補正内容】

【0195】また、 γ 特性は、撮像手段の露光動作の終了時から画像信号の画像信号処理手段への読出しまでの間に行なうようにしたので、フラッシュ撮影のように、本撮影を行なわなければ、撮影条件が確定しない場合にも、撮影条件に応じた好適な γ 特性を確実に設定することができ、フラッシュ発光量が不適切であっても画質劣化を確実に軽減することができる。

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第3区分
 【発行日】平成11年(1999)7月30日

【公開番号】特開平10-79887
 【公開日】平成10年(1998)3月24日
 【年通号数】公開特許公報10-799
 【出願番号】特願平8-233489

【国際特許分類第6版】

H04N 5/243

G03B 15/03

19/02

H04N 1/407

【F I】

H04N 5/243

G03B 15/03 X

19/02

H04N 1/40 101 E

【手続補正書】

【提出日】平成10年6月26日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】被写体光像を画像信号に光電変換して取り込む撮像手段と、被写体を照明する光線の状態に基づいて予め設定された複数の撮影条件に対応して複数の特性、及び／又は、フィルタリング処理の特性が記憶された特性記憶手段と、上記被写体を照明する光線の状態を判別する光線状態判別手段と、上記光線状態判別手段の判別結果に基づき特性、及び／又は、フィルタリング処理の特性を設定する特性設定手段と、上記撮像手段で取り込まれた画像信号を設定された特性、及び／又は、フィルタリング処理の特性に従って処理する画像信号処理手段とを備えたことを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項2】請求項1記載のデジタルカメラにおいて、閃光を発光する閃光発光手段を備え、上記光線状態判別手段は、閃光発光撮影においては、被写体が上記閃光発光手段により所定の発光量で照明されたか否かを判別することであることを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項3】請求項2記載のデジタルカメラにおいて、上記光線状態判別手段は、上記撮像手段の露光期間中に上記閃光発光手段の発光量が所定の発光量に達したか否かによって被写体が所定の光量で照明されたか否かを判別することであることを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項4】請求項1～3のいずれかに記載のデジタルカメラにおいて、上記特性設定手段による特性の設定は、上記撮像手段の露光動作の終了時から画像信号の上記画像信号処理手段への読み出しまでの間に行なわれるものであることを特徴とするデジタルカメラ。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正内容】

【0007】

【課題を解決するための手段】請求項1記載の発明は、被写体光像を画像信号に光電変換して取り込む撮像手段と、被写体を照明する光線の状態に基づいて予め設定された複数の撮影条件に対応して複数の特性、及び／又は、フィルタリング処理の特性が記憶された特性記憶手段と、上記被写体を照明する光線の状態を判別する光線状態判別手段と、上記光線状態判別手段の判別結果に基づき特性、及び／又は、フィルタリング処理の特性を設定する特性設定手段と、上記撮像手段で取り込まれた画像信号を設定された特性、及び／又は、フィルタリング処理の特性に従って処理する画像信号処理手段とを備えたものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正内容】

【0009】そして、本撮影においては、撮像手段で取り込まれた画像信号が光線状態判別結果に基づいて設定

された γ 特性及び／又はフィルタリング処理の特性に従って処理される。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正内容】

【0014】更に、請求項4記載の発明は、上記デジタルカメラにおいて、上記特性設定手段による γ 特性の設定は、上記撮像手段の露光動作の終了時から画像信号の上記画像信号処理手段への読出しまでの間に行なわれるものである。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0192

【補正方法】変更

【補正内容】

【0192】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、

デジタルカメラにおいて、被写体を照明する光線の状態（撮影シーンやフラッシュ撮影での光量状態）を判別し、この判別結果に応じた γ 特性及び／又はフィルタリング処理の特性により撮像手段で取り込まれた画像信号の信号処理を行なうようにしたので、撮像画像の画質を被写体の撮影シーンやフラッシュ撮影における撮影条件等に応じた好適な画質にすることができる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0195

【補正方法】変更

【補正内容】

【0195】また、 γ 特性は、撮像手段の露光動作の終了時から画像信号の画像信号処理手段への読出しまでの間に行なうようにしたので、フラッシュ撮影のように、本撮影を行なわなければ、撮影条件が確定しない場合にも、撮影条件に応じた好適な γ 特性を確実に設定することができ、フラッシュ発光量が不適切であっても画質劣化を確実に軽減することができる。